

日 時 平成27年3月11日(水) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番 村上啓二	2番 工藤和行
3番 黒石ナナ子	4番 今井敬
5番 工藤禎子	6番 佐々木隆
7番 後藤秀憲	8番 大久保朝泰
9番 大溝雅昭	10番 工藤俊広
11番 工藤和子	12番 山田鋳一
13番 福士幸雄	14番 北山一衛
15番 中田博文	16番 村上隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長 高 樋 憲	副 市 長 玉 田 芙佐男
総 務 部 長 成 田 耕 作	企画財政部長 後 藤 善 弘
健康福祉部長兼 福祉事務所長 村 元 英 美	農林商工部長兼 バイオ技術センター所長 永 田 幸 男
建 設 部 長 工 藤 伸太郎	総 務 課 長 阿 保 正 一
人 事 課 長 沖 野 恵美子	財 政 課 長 鈴 木 正 人
健康推進課長 木 村 斉 吾	農 林 課 長 兼 バイオ技術センター次長 玉 田 純 一
商工観光課長 幾 田 良 一	土 木 課 長 鳴 海 真 一
都市建築課長 真 土 亨	農業委員会会長 佐 山 秀 夫
選挙管理委員会 委 員 長 乘 田 兼 雄	監 査 委 員 廣 瀬 左喜男
教 育 委 員 会 長 委 員 長 村 上 良 子	教 育 長 阿 保 淳 士
教育部長兼 市民文化会館長 奈良岡 和 保	教育委員会理事兼 指導課長兼教育研究所長 宮 崎 晃 一
学校教育課長 山 谷 博 文	社会教育課長兼 青少年相談センター所長 駒 井 昭 雄
文化スポーツ課長 成 田 秀 範	黒石病院 事業管理者 柿 崎 武 光

黒石病院
事務局長 沖野俊一

会議に付した事件の題目及び議事日程

平成27年第1回黒石市議会定例会議事日程 第2号

平成27年3月11日(水) 午前10時 開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事務局 長	長谷川 直 伸
次 長	三 上 亮 介
次長補佐兼議事係長	佐々木 聖 人
主 事	櫛 引 亮 兵

会議の顛末

午前10時02分 開議

◎議長(村上啓二) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第2号をもって進めます。

◎議長(村上啓二) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

6番佐々木隆議員、16番村上隆昭議員を指名いたします。

◎議長(村上啓二) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次質問を許します。

3番黒石ナナ子議員の登壇を求めます。3番黒石ナナ子議員。

登壇

◎3番(黒石ナナ子) おはようございます。自民・公明クラブの黒石ナナ子でございます。

本日3月11日は、忘れてはならない、あの東日本大震災からちょうど4年目になります。今でも声にならないほどの苦しみ、悲しみ、いかばかりか、被災されました各地の皆様には一日も早い復興と復旧を願っております。

市議会議員として無投票とはいえ市民の皆様のお力により、4年間議員として働かせていただきました。改めて市民の皆様から心から感謝とお礼を申し上げます。

この4年間、鳴海前市長、そして高樋市長とお二人の市長のもと、理事者側職員、そして各会派の議員の皆様から新人である私に何かと御指導いただき、議員になって本当によかったと、

その心は今も変わりありません。

4年間、各定例会にて一般質問を休むことなく頑張らせていただきました。登壇発言の檄をくださった中田議員、また初めてで慣れない再質問に、やじを投げかけてくださいました佐々木議員。怖かったです、今はとっても懐かしい場面で思い出です。ありがとうございます。

1期目最後の一般質問、4年間の総括として、思いの深い黒石市の観光振興について質問させていただきます。輝く黒石を県内外に紹介し、さらなる活性化に向け高樋市長の思いに協力したいと願っているところでございます。理事者側の御答弁よろしくお願いいたします。

議員になって初めての一般質問のとき、観光振興の一節を紹介しました。

旅とは遠く遙かなものに対する人間のあこがれの本能の一つかも知れません。生まれてこの方、まだ一度も行ったことのない所を旅をするということは、本当に大きな魅力があります。ありのままの山や川、湖や海、そういった自然は私たちの疲れた心を和らげ、あすへの希望を抱かせる大きな母体ではないでしょうか。直接その土地に行き、目で見、耳で聞き、口で味わう、その印象は生涯忘れることなく旅人の思い出に残ることでございましょう。

幸い今、黒石の観光は最高のビジネスチャンスを迎えていると思います。こみせ通り、新しい観光スポットの松の湯、金平成園と自然景観の山形地区をあわせ、ほかには見られない輝く黒石の観光に、大勢のお客様を呼び込みたいと思うところから、質問に入らせていただきます。

黒石の観光振興について

1つ目、山の日、祝日制定にかかわる市の対応は。

平成28年8月11日、新たな国民の祝日として「山の日」が制定されました。その意義は、山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する。何も山形地区だけの振興を考えているのではなく、市内全体を考えたとき、山形地区にその資源が多く存在していることに、市長初め多くの市民の方々に御理解してほしいと考えることから述べているのでございます。

山の日制定に合わせて、黒石の里山景観もあわせ持っている、沖揚平・大川原・黒森山・中野もみじ山・厚目内などを「山の日」に向けての有効活用を市はどのようにお考えなのか。新たに「山の日」を記念して市がかかわりを持つ行事など、また恒久的な文化をつくり守っていくことはお考えがあるのかどうか、お知らせください。

2つ目、大型客船クルーズオプションツアー受け入れについてでございます。

かつて日本人の旅は、伊勢参り、出雲参り、那智参り、西国三十三観音、そして四国八十八ヶ所、こんぴら参りとおかげ参り、信仰参りが主流でありました。今でも神社仏閣のある観光地は、文化となって人々に守り続けられております。一里ごとに茶屋がおかれ一里塚で休憩し、旅人はわらじのひもを結び直したところ。ちなみに黒石から弘前まで三里半（14キロメートル）、十和田湖まで十里（40キロメートル）の道のりです。

今は外国から、特に円安も応援してかアジアからの観光客が多く、マスコミでもいろんな角度から紹介しております。

中国が突出して日本の不動産物件やメイド・イン・ジャパンの製品を買いあさっている姿には驚きです。我が青森県におかれましても、さくら野青森店内には、海外のお客様をもてなし受け入れる「タックスデスク」が設けられ、決してビジネスチャンスを逃さないという体制が取られているようです。そこでお聞きいたします。

青森港に次々と寄港する豪華客船オプションツアー受け入れに、現在、津軽黒石全体的にどのあたりまで進んでおられるのでしょうか、お知らせください。黒石にツアーが入った場合、どのようなコースをお考えなのか、旅行エージェントとの企画はあるのか、お知らせください。

3つ目は、子ども観光大使についてでございます。

以前、県からの呼びかけにお答えし、子供の人権を守る「国際児童年」に個人として東北各地をキャラバン隊の一員として活動したことがあります。そのときから、子供、特に小学生に、自分が一般人として何かをしてやりたい気持ちがあふれ出しました。

その後、鱒ヶ沢町立舞戸小学校に三味線部を創設いたしました。当時の長谷川町長、番場教育長、三味線を寄贈してくださいました舞戸財産区の佐藤会長さんとの間で三味線部が発足いたしました。現在も子供たちは、津軽の伝統芸能津軽三味線と津軽民謡に力を注いでおります。鱒ヶ沢甚句全国大会ではジュニア部門で優勝、準優勝、3位とすばらしい成績を見せてくれました。

中学校に進んで、子供たちはみずから音楽部を立ち上げ、頑張る生徒たちに発表するステージをつくってあげましたが、現在は町のイベントで大活躍です。特に国民の祝日「海の日」や町内の宵宮、敬老会など、今では舞戸小学校三味線部は町の人気者となっております。

このようなことから、黒石は祭りの多いところですよ。子供たちを祭りのオープニングセレモニーなどへの参加と、また役職をつけて一層と祭りに対する思いと伝統を守り続ける土壌を子供のうちから育て上げることはいかがでしょうか、お聞きいたします。

4つ目は、イザベラ・バードから学ぶ着地型観光についてでございます。

平成25年11月9日、第9回羽州街道交流会青森県大会が黒石にて開催されました。市が主催となって、関係担当職員の働きが大きく、大成功をおさめられましたことは、1期目の議員として思い出に残る大会でございます。平成24年山形県上ノ山大会では沢庵禅師和尚が主題となり、黒石ではイザベラ・バードが主題となりました。

黒石では今から140年前、明治11年、東京―日光―新潟―山形上ノ山―秋田―大館―矢立峠から碓ヶ関、乳井街道を進み、黒石に入ったのは8月3日、それから1週間ほど逗留、こみせ通り周辺に宿をとり、夜は黒石の140年前のねふたを見物、おとぎ話の世界のようであると表現し、

中野もみじ山、温湯温泉の大浴場をイギリスのパブのようだと表現、当時の素朴な山形地区の里山の原風景を、人力車に揺られ心豊かな表現で記しております。ふるさと黒石を文学で世界に紹介した女性です。

当時は黒石として何のおもてなしもできなかった時代。今だからこそ、反対にイザベラ・バードから学ぶ着地型の観光だと思えます。

羽州街道交流会では、市民の方からのお声で、バードは津軽弁が分かっていたのかどうかとの質問がございました。通訳の伊藤鶴吉さんはその日お休みをいただいておりますので、バードひとりで人力車にがたがた揺られての中野もみじ山への日帰りの旅行でした。バードは津軽弁は全然わからなかったと思えます。でも道案内の車夫は明るく楽しい人であったと思えます。

今だからこそ外国人に向けた対応はできるところから、黒石を訪れる外国人が年々ふえ続けているきょうこのごろ、受け入れる側としてのおもてなしとコミュニケーションの手段として、外国語の表記と簡単な日常会話の習得へ向けた対策はできないものか、お聞きいたします。

また、バードが歩いて見た、そして感動した景観を紹介する市内めぐりコースはできないものか、お聞きいたします。

これから黒石のさらなる観光振興を、現在国が挙げている「地方創生」地方自立性に結びつけることができないものかと考えるところです。

最後に、この4年間、観光振興と少子高齢化について質問させていただきました。思いを形に小さいながらも頑張れたと感じております。この4年間大変お世話になりました。これにて壇上から1期目最後の一般質問を終わらせていただきます。

1期4年間、まことにありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 黒石ナナ子議員にお答えいたします。

私からは、黒石市の観光振興について、大型客船クルーズオプションツアー受け入れについてを答弁させていただきます。

大型客船につきましては、平成27年度は、既に17回ほど寄港が決まっており、さらにふえる見込みであるようであります。大型客船の就航を企画する企業に対する市単独でのコンタクトはございませんが、当市といたしましては、県観光担当課へ観光コンテンツ情報の提供も行っており、県では乗船客対象のオプションツアーを担当する関係者に対し、当市初め県内コン

テントをPRしていると伺っております。

また先週、県主催によりますクルーズ客船誘致に関するセミナー及び連携会議が開催され、自治体、港湾関係、観光団体による情報交換が初めて開かれました。その中では、クルーズ客の移動時間は片道約1時間程度で、移動も含めて滞在時間は約7時間が目安となっており、その時間的制約のある中で、満足度のある時間を提供するためには、各自治体単独ではなく近隣市町村間で連携したコース設定などの必要性も話題に上がったことから、市といたしましては、今後も引き続き県や青森県観光連盟、近隣自治体などと連携を図り、情報共有や検討を重ね、当市の売り込みに努めていきたいというふうに考えております。ほかにつきましては、担当部長より答弁させます。

降 壇

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは「山の日」に関する御質問、それから子ども観光大使、それとイザベラ・バードに関する着地型観光についてお答えいたします。

まず、「山の日」に対する答弁でございますが、昨年の定例会でも議員から同様の質問がございましたが、市内には里山を舞台とし自然に親しむイベントはたくさん開催されていることから、市主催で開催する形式のイベントではなく、野山を愛好する市民を初めとする民間団体でのイベント開催の気運がさらに高まることを期待するとともに、そのような相談等があった場合はできる範囲で協力をしていきたいと考えております。

次に、子ども観光大使に関する御質問でございますが、土壌をつくるということで各イベント等市内でたくさん開催されておりますが、その発表の場の提供というのはかなり行われております。各イベント主催者側ではイベントに花を添えることを目的に、また学校や保育園等でもイベントに参画することで子供たちに郷土への関心をもってもらうことを踏まえ、「ふるさと元気まつり」や「黒石こみせまつり」、「黒石りんごまつり」など観光イベントを初め、昨年挙行了した「黒石市市制施行60周年記念式典」や先般開催の「黒石市健康都市宣言市民のつどい」、その他「黒石緑化まつり」や「黒石市消防団観閲式」、「黒石市民福祉大会」、「黒石市長寿福祉大会」などでも出演する機会を設け、観光に限らずあらゆる分野の行事で子供たちは遊戯や鼓笛などを披露しております。また中学生以上では、子ども会シニアリーダー会や警察関係でのJUMPチームなどに参画している青少年もいろいろな立場や場面で立派に活躍していることから、今のところあえて子ども観光大使の称号を与える必要はないものと考えております。

次に、イザベラ・バードから学ぶ着地型観光でございますが、現在当市も町なかを拠点とし

て観光ボランティアガイドの会や食と体験を盛り込んだ観光ルートを有料でガイドする、いわゆる「まち歩き」を実施する民間団体も発足し市街地を中心に頑張っております。

まず観光ルートの造成については、これら関係者とその可能性について研究したいと考えます。

次に、外国語表記あるいは通訳の問題であります。当市では中国語、韓国語、日本語、それから英語ですね、4種のつづら折りの観光パンフを作成しております。これらを活用するとともに、観光客としては個人客あるいは団体客でそれぞれ通訳対応があると思いますので、その辺も含めて今後の課題とさせていただきます。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。3番黒石ナナ子議員。

◎3番（黒石ナナ子） 市長さんみずから御答弁、まことにありがとうございました。

「山の日」なんですけれども、民間団体がウォーキングとか以前から行ってます。私は、青森とか鱒ヶ沢では「海の日」というのを記念に、恒久的にこの祭りを続けようというのを目の当たりにしております。ですから、市の方でもずっと協力して新しく、以前からやっているウォーキング、山を親しむウォーキングとはまた別個に、新たに国民の祝日を記念して何かをこう文化にしてね、続けてやっていけるものを何か考えていただけるのかなと思っていたのですが、民間団体にできるだけ協力するというところでございますね。だめなんだろうと思います。本当は市の方で新しく国民の祝日を記念して何かを、それを続けて文化にしていけたらなと思っております。それはちょっとできないんでしょうね。

次は大型船クルーズオプションツアーなんですけれども、去年は20回入ってまいりました。ダイヤモンド・クルーズの1船に2,700人、今度は3,000人ぐらいが乗ってくるということで、市長さんが御答弁してくださいました、油川の岸壁から約1時間、観光地まで。ですから余り、黒石のほうもそうですけれども、近郊近在というので、田舎館のアートそして黒石、駅前からずっと、松の湯、黒石の市内なんですけれども。青いもみじ、薄もみじの、中野もみじ山の薄もみじなんかもいいんじゃないかなと。自然の原風景が山形地区のほうに残っておるので、そういうのも含めて、時間にも限度があるとは思いますが、それを私はちょっと考えておりました質問させていただきました。ありがとうございます。これからぜひともこの黒石の中町、こみせ通りとか、また自然の山形地区を結びつけた、そういうコースなども考えていただけたらいいなと思います。

また、子ども観光大使なんですけれども、この子ども観光大使は、私、以前何度か質問させていただきました。質問している間に、山形県のほうではもう子ども観光大使ができてしまい

ました。ちょっと残念なんですけれども、お祭りに参加していますよね、子供たちいろいろと、市制60周年とか。そういうのもあるんですが、私の質問のあれでは、そういう子供たちに大使とかそういうのをつけていただきたい、そういう意味で質問したんですね。それが、やっているんで考えていないということです、ちょっと残念なんです、本当に残念なんです。少子高齢化で子供もだんだんあれなんで。子供がテープカットとか、一番大事なねふたとか、黒石よされとか、そういうときに子供も前に出して、そしてオープニングをにぎやかにすると。子供ももちろんねふたやよされにも参加しております。ぜひ、前面に出してオープニングに参加する、させたい。私たち大人、私はさせたいんですね。そういう意味で、どうかなと考えたことです。だめということで、それは仕方ないんですが、でもまたなんかしていきたいと思えます。

また、イザベラ・バードから学ぶ着地型観光なんですけれども。バードが来て40年、今ちょっとイギリスブームだと思います。テレビのほうでも「マッサン」を初め、いろいろとイギリスが人気を得て、せんだってウィリアム王子が来日して、東京五輪のオリンピック予定地を視察して、また3.11の被災地である福島・宮城県を訪問して、被災されました人々と肩を並べてお話をしておられ、イギリス・日本の経済文化面でのきずなを一層と深めたような形で、私は受け取りました。また、イザベラ・バードにおかれましてはイギリス政府より設立された公的な国際的な文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルという、各国における英語の普及やイギリスと諸外国間の教育・文化・交流を目的としてロンドンに本部を有し、100カ国以上に事務所を置いて活動を行っております。日本では東京新宿に事務所があります。英語の講座や各種行事を開催しており、イギリス・アメリカのベストセラー「イザベラ・バード日本奥地紀行」のお話も上がっておられるようです。100年前に創設されましたブリティッシュ・カウンシル、総裁はエリザベス女王ということですが、そのようにお聞きしております。長くなりましたが、バードの着地型観光についてバードのことをちょっとお話しさせていただきました。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） まず、観光大使でございますが。まず、観光大使の捉え方ですが、いわゆる対外的に、いわゆる市域外で広く黒石を紹介していただくこと。ということはある程度前提に置いてますので、基本的に黒石市に在住する立場。担当としては市民全員が観光大使で、もし外に出ていったら宣伝していただければと。まず、そういう考え方が前提でございますので、御理解いただければと思います。

次に、イザベラ・バードに関する着地型の観光のコース設定については、旅行業法等の問題もあります、これはある程度議員御提言のことでもありますので、多分エージェントとも相

談すれば、あるいは企画できる可能性もあるのではないかと考えますので、今後ちょっと協議してみたいと思います。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、3番黒石ナナ子議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、2番工藤和行議員の登壇を求めます。2番工藤和行議員。

登壇

◎2番（工藤和行） おはようございます。私は、自民・公明クラブ工藤和行であります。

あれから4年、東日本大震災からきょうで丸4年であります。もう4年なのか、まだ4年なのか、人によって感じ方はさまざまでありましょう。

しかし、いまだ全国で避難者22万9,000人を数え、8万人もの方々が仮設住宅での不便・不安な生活を送り、復旧・復興が遅々として進まない状況に心身の健康も心配されているところがあります。心が痛みます。同じ東北人、日本人として、忘れない。これからもともに心してまいります。

そしてまた、我々議員の今任期4年もあと1月ほどとなりました。今思うとあつという間と言える4年でありました。さよなら議会となる今議会で通算16回目の一般質問、若干の質問をいたしますので、真摯なる御答弁をお願いいたします。

さて質問の1点目は、財政について、アとして平成27年度予算についてであります。

高樋市長にとって初めての予算編成であり、我々も大いに注目しているところであります。また、昨年12月には衆議院総選挙があり、国の予算編成が例年よりおくれ、各部局においても国や県の動向、情報収集に苦勞されたことと思います。まずは職員の皆様の労をねぎらいたいと思います。

さて、国は消費税10%への引き上げを延期し平成29年4月としました。庶民感情としては一安心といったところでありますが、社会保障制度の改革が不透明になる中、子育て支援、医療、介護など社会保障の充実については予定どおり実施することとしており、かえって地方の負担がふえるのではないかと心配されるところであります。

政府はアベノミクス効果を地域の隅々にまで行き渡らせると言っておりますが、先日の新聞では、地域経済の活性化に向けた取り組みは、「十分な実績が上がっていない」という声が多いということが載っておりました。

市内に目を向けた場合、一部企業で工場増設の動きはあるものの、26年度産の米の価格下落により農業所得の低迷は確実であり、市内の景気回復はまだまだ実感できる状況ではありません。

こうした中での新年度予算編成であったと思いますが、依然として財政的な基盤が弱い中で、

何を重視したのかをまずお尋ねいたします。やりたいこと、やれないことさまざまあったことと思いますが、新年度予算に対する市長の考えをお示しいただきたいと思います。

また、新年度予算で財政調整基金を3億円取り崩し、基金残高は700万円になるとのことですが、非常に不安を覚えるものであります。平成26年度当初予算では財政調整基金を3億6,000万円を取り崩し、平成26年度末の残高は3,000万円とのことでした。幸いにも平成25年度決算が6億5,000万円の黒字であったことから、現在の3億円の残高があるものと思います。平成26年度も同じように黒字になるとは思えないのであります。そこで、財政運営計画では財政調整基金はどのような想定をしたのかをお示しいただきたいと思います。

次に2点目、教育行政について、アとして小・中学校の適正配置と給食についてであります。このことに関しましては、従前から何度もお聞きしているところであり、しつこくお聞きしますが、よろしくお願ひいたします。

教育委員会としては、平成26年9月に適正配置の方針一部見直し案を公表し、その後10月の、私の、今後の説明会の予定をただした一般質問に対し、「地域住民を対象に、改めて市内10地区での説明会を開催していく。また中学校の適正配置では、ことし4月に入学する生徒から統合に関わってくるので、入学説明会などでも保護者や生徒に対し積極的に情報提供していきたいと考えている」と答弁していますが、この点、現状どうなっているのか、まずお聞きします。

3点目は黒石市のまちづくりについて、アとして文化財を生かしたまちづくりについてであります。黒石市には、先人たちが築き残してきてくれた、大きな財産ともいうべきものがたくさんあると思います。歴史的な町並み、田園風景、祭り、風習などなど。そして、それらを傳承し、楽しみ、後世に伝えるべく、また、まちづくりに生かそうと活動している方々もたくさんおられます。

お聞きするのは、これら点在する文化財等を結びつけるため市としてどのような取り組みをしているのか、まず1点。そして現在、板塀工事など完成に向け最終盤に入っている金平成園（澤成園）であります。一般公開の予定について、わかっているところ、情報がありましたらお知らせください。

最後になりましたが、この3月で退職される皆様、長い間の御勤務精励に対しまして、衷心より感謝申し上げますとともに、これからのさらなる御活躍をお祈り申し上げます。今後も黒石市を応援していただきますようお願いいたします。

以上で私の壇上からの質問といたします。御清聴まことにありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤和行議員にお答えいたします。私からは財政について、平成27年度予算についての考え方等についてお話しします。

予算編成に当たって最も重視いたしましたことは、財政の健全化であります。厳しい歳入環境にあって、一般財源総額は前年度に比べて0.8%の減となり、今までの事業を継続させることが精いっぱいであったことは確かであります。従いまして、今後職員には市民サービスを低下させることのないよう業務を遂行しながらも、事業の実施に当たりましては、お金をかけない工夫、成果を上げる工夫に努めるように求めているというふう考えております。大きな新規事業はありませんが、国の補正予算もありまして、まちの活性化に向けた取り組みを幾つか補正予算に盛り込むことができました。地方創生はまだ種をまくところではありますが、今後の成果が上がるよう努めてまいりたいというふう考えております。

次に、財政調整基金についてであります。平成26年度の普通交付税が当初見込みより2億円以上少なかったことから、財政運営計画の見直しを図りました。その計画では、平成27年度末の財政調整基金は、数千万円の残高であります。現時点での残高見込みは約700万円ですが、平成26年度決算での不用額等を勘案いたしますと、おおむね計画の範囲内であると考えております。しかし、決して余裕がある状況ではないというふう考えております。私からは以上です。ほかにつきましては担当部長より答弁をさせます。

降壇

◎議長（村上啓二） 教育長。

◎教育長（阿保淳士） 工藤和行議員の小・中学校の適正配置についての御質問にお答えします。

平成26年9月の市議会議員全員協議会において、適正配置の方針一部見直し案を公表後、市立小・中学校の校長で構成する黒石市校長会や地区協議会会長と公民館館長が出席する連絡協議会、市連合PTA役員会などの席上でこれまでの経緯と今後の方向性を説明したほか、広報くろいしに見直し案を掲載し、周知を図ってまいりました。

広く地域住民を対象とした市内全地区での大規模な説明会の開催には至っておりませんが、小学校では第1段階として平成30年4月の統合を予定している、六郷小学校と上十川小学校の両地区において、地区協議会やPTA総会などで時間をいただき、地域や保護者の皆様に説明してきたところです。

また、このたびの方針見直し案で、校舎・設備の老朽化が著しい東英中学校の統合については、「保護者や学校現場などの理解が得られれば」ということを前提に統合前倒しを検討することとしたため、統合時に直接かかわる東英小学校5年・6年生と、東英中学校1年生の保護者を対象とした説明会に重点を置き、理解を求めてきたところでございます。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは、黒石市のまちづくりについての中、点在する文化財等を結びつけるために、どのような取り組みをしているのかについてお答えいたします。

歴史や文化・風習などを後世に伝える大切な文化財のほか、誇れるあるいは黒石らしさを感じられる数多くの地域資源を結び、黒石の魅力を大きなものとする必要があると考えております。このことから、地域資源の発掘や活用を行う「黒石市小さなまちかど博物館事業」を継続するとともに、快適に回遊できるルートや、わかりやすい案内板の設置、楽しめるマップ作成などにより来訪者がまた訪れたいと感じていただけるよう、事業を展開してまいります。

また、市が継続して取り組んでいる人材育成事業でノウハウを学び、特定非営利活動法人となった「横町十文字まちそだて会」が、点在する資産を結びつけた「まち歩きツアー」を実施しており、今年度は総計274人の参加があり、広く県外からも多くの方が足を運んでおります。

そのほか、松の湯交流館と金平成園を結ぶ通りとなる横町においては、全国から寄せられた、こみせ再生アイデアを紹介するとともに、昨年9月の10日から、実際に現地に仮設こみせを設置し、景観や快適性の検証をいたしました。

さらに、しとみに四季折々の風景や祭りを描き、黒石市のPRとなるデザインしとみなどの利用形態を提案し、地域及び市民の意識向上へ向けた取り組みを実施しており、今後へつなげてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは、文化財を生かしたまちづくりについての、金平成園の一般公開の予定についてお答えします。金平成園の一般公開については、所有者の意向によりますと、当初は春から秋までの6カ月間を予定しておりました。しかし、ここ一、二年は桜まつりの期間、夏まつり期間及び紅葉シーズンの期間限定での公開を考えている、とのこと。また、運営方法についても相談を受けているところでございます。

本市にとって金平成園は、重要文化財高橋家住宅、登録記念物鳴海氏庭園などと同様に貴重な財産であることから、本市でもできるだけ協力していきたいという考えであり、現在、運営体制や公開時期について協議を進めているところでございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） ただいまは答弁ありがとうございました。

一問一答でありますので一つずつということで聞いていきますが、まず、文化財を生かしたまちづくりについての部分であります。点在する文化財等を結びつけるためにの部分で聞いて

ておりましたけど。その中で、今出てきました回遊ルートであります、これにおける、今現在建設中である松の湯交流館、これがルートにおける役割としてはどのようなことになっているのかお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 松の湯交流館は、こみせ通り沿いの松が屋根を突き抜けているシンボリックな姿を持つ歴史的な建造物であり、観光の拠点として位置づけております。

施設内の観光情報ブースでは、観光や各種イベント、歴史、回遊ルートなどの情報を得られるほか、無料休憩スペースでゆっくりと休んでいただけることができます。黒石駅から散策しながら来られる方には観光の中継地点として、また駐車場を確保していることから、車で来られる方には観光の起点として、重要な役割を担っているものと考えております。

松の湯交流館で得た情報を活用し、市街地のまち歩きや自然豊かな郊外へ足を伸ばしていただくことにより、市の活性化につなげてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） 現在この松の湯交流館を含むこみせ通り、それと今、春に完成する、この澤成、金平成園ですね、これを結ぶこのルートには横町などありますけれども、昨年假設物ではありますけれども、こみせ風のものをやったわけですが、おおむね好評であったと思っております。これに関しても現在空き店舗対策など商店への対策もやっているところでありますので、ぜひこの外観の方にも、現在補助しているのは改装、そして家賃などでもありますけれども、ぜひ私として、私見でありますけれども、こういうものにも活用して拡充していただければ。町なかへの活性化の一つにも、また観光への振興にもつながるのではないかと考えておりましたので、ま、何かあれば座りますけれども、なければこのまま、提言という形で次のほうに入ってよろしいですね。

◎議長（村上啓二） やれますか。建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 青森県の観光フォーラムにおいて、仮設こみせの取り組みを紹介したわけでございますが、これについてまた、国交省の主催の東京における報告会がございまして、この全国で19件の提案の中10件が選定され、その中の1つとなっているこの事例について、全国に発信しているところでございます。これにつきまして、その前に、景観、黒石市の景観シンポジウムでこみせの再生提案協議の受賞作品を紹介していることもあり、その協議の内容についても国土交通省のほうに前年度報告しているところであります。

ということで、視察が近年ふえている、例えば昨年鹿児島市の副市長会、それら景観の先進地である、そういうところから視察に来ている、そういう状況が続いているということをお知らせしたいと思います。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） サービスしていただいたようで、ありがとうございます。

せっかくお答えいただきましたので、ありがとうございました。

次の違う項目に移りたいと思います。適正配置についてであります。これについて、ただいま中学校のほうが、とりあえず私としても理解も進んでいて、統合はまあまあ問題なく行きそうな感じと受け取っているところでもありますけれども、先ほど答弁の中にもありました。東英中学校の部分で、理解を得れば前倒しをするということでありましたけれども、その検討結果などはどうなっておりますでしょうか。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 東英中学校につきましては、平成29年4月に黒石中学校と六郷中学校と一斉統合する方針を示しておりましたが、校舎の設備の老朽化が急速に進行していることから、昨年9月の市議会議員全員協議会において、「保護者や学校現場などの理解が得られれば」という前提のもとで、平成28年度の統合前倒しを検討したところでございます。

統合年度の前倒しの検討に当たり、統合に直接かかわることとなる東英小学校5・6年生と東英中学校の1年生の保護者を対象とした説明会を開催するとともに、アンケートを実施し、保護者の皆様の意向を確認いたしました。

その結果、6割の保護者が統合前倒しに賛成だった一方で、4割の保護者の方々は統合前倒しに反対という結果になりました。特に、中学校1年生の保護者の反対意見が強く、「老朽化の状況は十分理解しているが、校舎は耐震補強を行っており、今すぐに危険な状態でなければ統合前倒しに賛成できない」といった意見や、「いずれ統合することには理解できるが、前倒しとなると子供たちの精神的な負担もあり準備不足ではないか」といった意見、また、「当初予定していた平成29年度の統合を見据え、保護者としてもじっくり時間をかけ、閉校式など学校行事に協力していきたい」といった意見が数多く寄せられました。

教育委員会といたしましては、子供たちの安全で快適な教育環境を確保するため、少しでも早く統合したほうがよいとの考えでございましたが、このような状況では保護者の方々の十分な理解を得られたとは判断しがたく、また、皆様の意見を重く受けとめ、統合前倒しを断念することを決定したところでございます。

したがって、東英中学校は当初の方針どおり、平成29年4月に黒石中学校、六郷中学校と一斉統合する方向で進めてまいります。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） 一斉統合の方針であるということではありますが、でありますと中学校の統

合する、3校で統合する、黒中・六郷・東英ということになるわけですが、細かい部分での作業状況といますか検討状況、そういう部分ではどうなっておりますでしょうか。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 平成29年4月に統合を予定している黒石・六郷・東英の3中学校の統合につきましては、現在、教育委員会でスクールバス運行の検討を行っているほか、3中学校の校長間で教育課程の統一や制服・ジャージなど学校指定品の扱いなどを協議しているところでございます。

最初に、スクールバスの運行につきましては、ことし1月に文部科学省が「公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を60年ぶりに見直し、通学範囲を小学校4キロメートル以内、中学校6キロメートル以内、通学時間1時間以内と示したところでございますが、本市においては、小学校の通学距離おおむね2キロメートル以上、中学校おおむね4キロメートル以上の児童生徒を対象にスクールバスを運行する予定といたしました。現在、専用バスとするか路線バスを活用するのかといった運行形態を初め、運行ルート、運行本数等の検討を行っております。

次に、3中学校間で協議・検討している事項をお知らせいたします。

まず、制服・ジャージなど学校指定品の扱いにつきましては、統合と同時に統一することとはせず、29年4月の統合後に、学校主導のもとでリニューアルしていくことを申し合わせ、協議を継続している状況です。

さらに、生徒の統合による不安解消のための学校間交流、教育課程や使用教材の統一などを検討することとなっております。

また、今後は統合に関するさまざまな案件を協議するために、3中学校の教職員やPTA代表者、地域住民等で構成する審議組織を設置し、具体的な事項を決定していく予定となっております。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） 中学校に関しては、着々と進んでいるという状況、印象でありますけども。小学校なんですね、問題というかちょっと指摘しておきたいところ、質問になるかどうかわかりませんが。

昨年、方針の一部見直しの際、枠組みとしては変わっていない、従前からの小学校の枠組みであると、統合の枠組みであるということでもありますけども、六郷・上十川については、これもまあ、昭和30年4月からの統合、使用校舎も……

（「平成」と呼ぶ者あり）

◎2番（工藤和行） あ、平成。済みません。平成30年4月から統合していくということで、こ

のほうも理解が進んでいるということでありますけども、そのほかですね、黒石・中郷・北陽に関しても、まあ、枠組みとしてはどうかわかりませんが、この方針でもうたった、その新築の場所、これについても変わる可能性があるのではないかと。

また、まだ地区などPTAなど説明が尽くされていないように私は感じておまして、これも私見ではありますが。地元、追子野木なもので、その辺を言いますと、追子野木小学校、浅瀬石小学校、その地区に学区のやはり見直しをしながら、言っちゃえば袋井町のあたりを一つの学校の区域として、追子野木、給食設備もあるわけでありまして、その辺も方針一部見直しなどこれまでもしてきているわけでありまして、これが全て方針が決定事項というわけではありませぬでしょうから、その辺も少し考えて、柔軟に考えていただきたいというところがあります。多分、答えられないと思うので、このまま立っていっばなしで次の質問に入ります。いいですね。

◎議長（村上啓二） 一つずつですから。何を聞きたいか。

（「一旦座ってまた立ってもいいわけですね」と呼ぶ者あり）

◎議長（村上啓二） できる範囲内で、答えてください。大事なことです。教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） ただいまの御指摘を受けとめて、さらに我々としては地域に出向いて、汗をかきながら説明するとともに、理解を得られるように努めてまいります。以上です。

◎議長（村上啓二） 2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） ありがとうございました。

それでは、次、27年度予算についてでありますけども、これにつきましては、厳しい中組んだ予算でもあり、この特別委員会も設置されておりますので、細かい部分につきましてはそちらのほうで、または補正の部分も議案の中で議論させていただきたいと思っております。ただ一つだけ、厳しい予算でもありますし、執行の時は適正に執行していただくことをお願い申し上げ、終わります。

◎議長（村上啓二） 以上で、2番工藤和行議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、6番佐々木隆議員の登壇を求めます。6番佐々木隆議員。

登壇

◎6番（佐々木隆） 黒石市民クラブの佐々木隆です。東日本大震災からきょうでちょうど4年となります。いまだ仮設住宅で生活されている方、まだ心の傷がいやされていない方々の、一日も早い復興がされますことを念ずるところであります。

それでは、今期最後の議会での一般質問をさせていただきます。

初めに黒石市の農業振興についてであります。

本市の農業は、リンゴと米を中心に高冷地野菜、トマト、ホウレンソウなど市の経済の活性化に大きく寄与するものと言っても過言ではありません。

しかし、現在は担い手不足、少子高齢化や人口減少社会への移行などの課題や自然に大きく左右される産業であることから、農業を取り巻く環境はますます厳しくなることが予想されております。

また、先日平成27年度当初予算案の概要説明を受けましたが、財政再建、赤字解消に向けた厳しい予算編成でありました。高樋市長におかれましては、初めての予算編成に当たり、財政状況の厳しさを痛感し、高樋カラーを鮮明に出せずに、胃が痛くなる思いであったのではないのでしょうか。

そのような中であって、農林業関係では、農業者の経営安定のために地域の共同活動を支援し、中山間地域に対する直接支払制度の実施、青年就農者の確保、農業用道路・水路などのインフラ整備に関しては、国や県と連携したさまざまな施策、また地元と連携した農道除雪対策、農業用機械導入補助などの市独自の施策を行うなど、大幅に減額されることはなく、継続される予算内容となっていることに、これまでの施策が多く農業者からは、歓迎の声が聞こえているので安堵している所であります。

そこで、第一の質問は米産業に関して、平成27年度主要施策、農業活性化プロジェクト、農業振興対策事業の「黒石米活用検討実験事業」25万円についてお尋ねします。

市長は、農林産物を「黒石ブランド」として広く販売するためのトップセールスに努めると掲げている中で、黒石米をすし米として復活することに意欲を見せております。年頭の記者会見後の新聞記事にも、「元気な黒石を取り戻す切り札」とありました。切り札としては予算が少ないと感じますが、この事業の内容とスケジュールをお尋ねします。

次に、特Aを獲得した青天の霹靂の市の対応についてお尋ねします。

昨年秋には、米価が大きく下落し、農家からは悲痛とも思える声が大きく聞かれています。しかし、日本穀物検定協会が2月19日発表した2014年産米の食味ランキングで、参考品種ではありましたが、県開発の「青天の霹靂」が初めて特Aを獲得し、三村知事の満面のほほ笑みが報じられておりました。

新聞等によると、黒石市は特に良食味生産が可能な水田と生産者がいる全域作付地帯に指定されており、これからの米農家の経営意欲に大いに弾みがついたものと考えます。

青森県では水田農業の再構築を最重要課題に掲げ、関連事業費を盛り、販売・生産対策の両輪で早期のブランド確立を目指し、あわせて県産米全体の評価引き上げを図るようであります。この中で農協などへ食味計導入支援、生産技術の指導・普及といった生産対策を進めるとあり

ました。「青天の霹靂」作付により、米農家の生産意欲や所得向上は本市にとっても大きなチャンスと考えます。

3月3日の新聞には、作付計画面積1,100ヘクタールに対し、実施面積は半分の550ヘクタールにとどまったと発表されました。厳しい栽培基準などがネックになり、様子見の農家が多いとのコメントが記載されておりました。まだ農家の大半がいろいろな不安を抱えているようです。これに対して、今後、黒石市がどのように対応するのか、また、参考までに本市での作付希望者数と面積はどの程度あるのかをお尋ねします。

農業振興の最後は、りんご産業に関して、「天皇・皇后御訪問記念」についてであります。

昨年9月、両陛下が浅瀬石のりんご園とりんご研究所を御訪問なさいました。その際、市長と議長が、りんご園では、たわわに実ったリンゴを収穫する両陛下を見守る様子がテレビ放映され、その後りんご研究所御訪問の際には、りんご農家と一緒に懇談したと伺っております。まことに名誉なことだと考えます。

我々議員もりんご研究所で国旗を振り、大きな声をかけ、お出迎えをしましたが、両陛下はとても気さくに手を振ってくださった記憶が今でも思い出されるところであります。

毎年12月に、りんご研究所では両陛下にリンゴを献上するためのリンゴを磨いている様子がテレビで放映されます。

田舎館村では両陛下御訪問を記念し、役場敷地内に記念碑を建立し、両陛下御訪問をPRし、後世に残したという記事がありました、

そこで質問ですが、市長のトップセールスのときやさまざまな場面で両陛下の御訪問をPRし、また、贈答用のパッケージに、例えば「献上りんごの里黒石」、「両陛下御訪問の黒石りんご」などを印刷して、りんご産業のさらなる活性化に資してみてもはどうでしょうか。黒石りんごに対する宣伝効果は絶大なものと考えますので、市の見解をお尋ねします。

次に、教育行政についての質問に移ります。

教育委員会より平成25年2月25日に説明を受けた黒石市の学校適正配置の基本理念は、私が持っている資料のWHO（世界保健機関）の総児童数100人以下の小規模学校を推奨する考えとはほぼ逆な発想になっていると思われませんが、大人になってからの社会環境に適応するためなどの考え方で、大人数制教育の方針を立てている黒石市の理念と、WHOが示している少人数制教育のどちらが児童生徒に対してよいのか、専門家でないのでよくわかりませんが、ただ財政難だからといって費用面だけで考えた場合の学校統廃合では、学校教育のばかりでなく、社会教育的なことも考えた場合、児童生徒と地区に対する影響はよい点ばかりとはいえないと思います。

市の基本理念では、今後統廃合された場合の子供たちの教育面でのメリットだけが目立って

いると思うのですが、学校が地区からなくなるということは、ただでさえ薄くなっている子供たちと地区のコミュニティーの関係がもっと薄くなるのではないかと危惧するものであります。

当市は以前から1地区・1小学校・1公民館の形が残っていたことから、地区のコミュニティーには学校教育もかなり関わってきたと思います。学校と子供たちと地区との間には目には見えないけれど、昔から育まれてきた三者の関係が根づいているものと思っております。これからも地区の未来を担う子供たちには地区の未来のことを大いに勉強してもらい、そして考えてもらうことが大事だと私は思っております。昔からのかかわりがあったと思われる地区独特の行事、例えば運動会、郷土玩具の製作、地区の史跡学習、地区の伝統行事の学習など、大人になってから自分の地区はどんなところがよいのか、何が足りないのか、何ができるのか、さまざまなことについて考えることができるのだと思います。

今、全国的に若者が選挙に無関心になっていると言われております。地区を思う心が地区の未来を占う選挙の投票率にもつながるのかもしれませんが、これも子供のころからの関心が大事だと思うからであります。国の示した方針である小・中一貫校を当市の事情に合わせて反映させることも大事なことと思っております。

それでは、学校という地区の拠点施設がなくなること、学校が遠くなることでの防犯対策などを考えた上で質問に入ります。

1つ目は、学区を人口別で見ると追子野木小学校学区だけが人口増となっておりますが、廃止を考えた理由と見直す考えはないか。

2つ目は、統廃合に向けて学区の見直しを考えているのか。

3つ目は、方針をはっきりさせなければ、住民は転居先となる土地購入や新築の判断に鈍りが出るので、はっきりとした方針を示すべきではないでしょうか。

4つ目は、地区コミュニティーと新学区内の子供たちのかかわりを考えているのかお尋ねします。

以上で私の壇上からの質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 佐々木議員にお答えいたします。

私からは農業行政についての「黒石米活用検討実験事業」についてお答えいたします。以前、黒石米として好評を得ていた旧青森県奨励品種を試験栽培し、試食検討会とアンケートを行い主食米との差別化を図り、すし米としての可能性についてマーケティングするものであります。今後のスケジュールは、青森県産業技術センターから350グラム程度の育苗した苗の提供

を受け、南黒おこめクラブに手植えによる田植えから稲刈りまでの栽培管理を委託し、すし米としての試食会やすし店への持ち込みを行い、食味アンケート調査による需要調査を行う予定といたしております。

単年度での評価は難しいと予想しておりますので、性急に結果を求めず、複数年の検討を考えております。私からは以上です。他につきましては、関係部長より答弁させます。

降 壇

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、青天の霹靂への市の対応についてと、天皇・皇后両陛下の御訪問のPRということで黒石りんごの発展につなげないかという御質問についてお答えします。

まず、青天の霹靂であります。その栽培に当たっては、青森県が中南、西北、東青の各地域県民局にプロジェクトチームを設置し、高品質・良食味生産に確実に取り組めるよう指導しながら栽培を普及することになっておりますので、生産者と同様に当市も青森県から指導を受け、研修会に参加し、情報の共有化、連携強化による栽培情報の周知で、生産者が安心して栽培できる体制整備を図り、米産業の活性化のため基盤整備の充実と、また、農地中間管理機構の活用等による農地集積で経営経費節減や所得向上に努めてまいりたいと考えております。

黒石市内の作付希望者数と作付面積であります。当市では42人の個人・組合が生産者登録し、約110ヘクタールを作付し、約600トンの収穫を見込んでおります。

次に、天皇・皇后両陛下に関する御質問でございますが、昨年9月の両陛下の御訪問につきましては、市内外から多くの市民らの歓迎があり、市の10大ニュースでも第1位になるなど大きな反響がございました。また、去る1月26日に行った市長とりんご生産者との意見交換の中でも、このことが話題になりました。

そこで、両陛下の御訪問をりんご販売に係るPRについて、青森県を通して宮内庁に確認したところ、正式な文書回答ではございませんが、「一般的な常識の範囲内であれば御訪問自体をPRしても問題はない。ただし、商業的な目的で特定の商品でPRするのは困る」と回答されたところでございます。

本市にとって、りんご産業の発展は市の農業の活性化に直結するものと考えますので、宮内庁の回答を踏まえまして、そのPR方法について検討したいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは、教育行政についてお答えいたします。

まず、追子野木小学校についてですが、議員御指摘のとおり、過去1年間の人口の推移を見れば微増であります。追子野木小学校の児童数は減少傾向が続いていくと想定されているこ

とから、黒石市立小・中学校適正配置検討委員会の答申にのっとり、昨年9月の市議会議員全員協議会において御報告いたしました一部見直し案にしたがって、黒石東小学校を中心とした統合の枠組みで、平成32年度統合とする案で進めているところでございます。

また、学区の見直しについては、学校の統廃合により学区が広がることで不都合が生じる地域については、適正な学区になるよう対応したいと思っております。

次に、小・中学校適正配置の方針については一部見直しに着手したところであり、平成29年度の黒石・六郷・東英中学校の統合、30年度の六郷・上十川小学校の統合、32年度の牡丹平・浅瀬石・追子野木・黒石東小学校の統合、同年度の黒石・中郷・北陽小学校の統合に向けて、黒石市校長会や地区協議会長・公民館長会議、市連合PTA役員会等で説明するなど理解を得られるよう、情報提供に努めているところでございます。小・中学校訂正配置の方針決定につきましては、できるかぎり早期に示せるよう努めてまいります。

次に、地区コミュニティーと新学区内の子供たちのかかわりについてお答えします。

当市では、学校との連携で子供たちにかかわりのある独自の事業が各地区で展開されており、中でも羽黒神社奉納浅瀬石地区子ども会相撲大会や上十川獅子踊り子供組、地区合同運動会など、地域の伝統や特色を活かした活動があり、これらの地域活動を次の時代に伝えていくためにも、引き続き公民館を拠点とした地区コミュニティー活動の推進を支援してまいります。

さらに、地区に学校がなくなるとしても、子供たちが関係してきた地区行事や伝統行事の存続については、地区協議会が中心となって、継続して活動できるよう支援してまいります。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。6番佐々木隆議員。

◎6番（佐々木隆） 答弁ありがとうございました。市長のほうからは黒石米についての御答弁でありましたけれども、今いまには簡単にできないと思いますけれども、長い目で黒石米、すし米の復元できることを我々も協力してまいりたいと思います。

特Aの青天の霹靂についてですけれども、今、部長のほうから答弁がありました。本市の中では42人の方が作付され、収穫トン数としては600トンが見込まれるとお話がありました。この販売方法とPRをどのように考えているのか。それとですね、農業委員会会長がおられますけれども、会長は本市でも指折りの米農家と聞いておりますので、この青天の霹靂に関しての農業委員会の思えば変ですけれども、米農家個人の意見でもよろしいので、答えられれば、議長甘く見て、ちょっと答弁させてほしいと思います。

（「サービスだ」と呼ぶ者あり）

◎6番(佐々木隆) それと、天皇皇后両陛下御訪問の件ですけれども、なかなか商業、商売につなげてのパンフレットとかには難しいとのことでありますけれども、黒石市では毎年皇室に献上しているわけで、県のほうの許可を得るということですが、やっぱり、それは非常にこう、個人の商売やってる、商売にしている方は大変だと思うんですけれども、黒石市のリンゴに関してはうまく宣伝効果できると思いますので、その辺はもっとう、積極的にやってほしいなと思います。

それと、どこの町村見ても、天皇皇后両陛下が御訪問したというのがホームページなどに掲載されていないんですけれども、それもまた、なかなかできないものなのか。それをホームページに載せてPRできればなど、思います。

それと、高速インター降りてですね、看板を、田舎館の大きな、そういうものまではいかなくてでも、看板などを設置できないものかと。天皇皇后両陛下がリンゴをもぎ取った園地、その辺にも看板など設置できないものか、お尋ねします。

それと、教育行政についてですけれども、私が調べたところでは追子野木地区だけが人口が増になっているわけです。小学校で見れば減ってはいますけれども、私、去年の人口の動向を調べてみましたら、まだ旧1町5村の行政区で人口の統計をとっているわけですが、山形地区では昨年1年で105人減、浅瀬石地区では53人の減、追子野木地区では49人のプラス、黒石地区では29人の減、中郷地区が261人の減、六郷地区が43人の減とありました。今、追子野木地区が減る傾向があるという部長の答弁でしたけれども、多分49人もふえているということは、これから子供を産む人たちもふえてくるのではないかなと思います。それと、追子野木地区には日本を代表する優良企業もあります。そして、弘前、青森にも道路条件として非常に恵まれた土地柄なのかなと思うわけで、やっぱり小学校がなければそこには住宅も伸びて来ないのではないかなと思うわけで、追子野木地区が今最中こう黒石を元気にするために人数がふえているということで、なかなか簡単に見直すこともできないでしょうけれども、私の意見として、やっぱり追子野木地区、バイパス沿い、あの辺はベッドタウンともなり得る場所でもありますので、私の意見を、答弁はできないと思いますけれども、これは私の考えでありますので、お伝えしておきます。以上です。

◎議長(村上啓二) 農業委員会会長。

◎農業委員会会長(佐山秀夫) 先ほどは激励の言葉を頂戴してありがとうございます。

全国的に、43の記憶でございます、特Aの銘柄米があると。それに当黒石も参考品種でありますけれども、ランクインするんだと。まだランクインはしておりませんが、ことしが正念場でございます。当然、特Aを維持するためには、これ検定は毎年行っております。これを維持するためには、安全・安心、そして何よりも流通も出回らなきゃならないと。そして、まだ

ひとつ足りないのは農家の方々、あるいは行政の意気込みもなけりゃならないと。宣伝も恐らく加味されていると、私はそう見ておるわけでございます。

それで、私もことしは作付をします。また維持するためにも県あたりの指導、マニュアルもでございます。本当においしい米は何がネックになるかと、タンパクの含有量でございます。これが、6%以内と。これを超えると、もうオミットでございます。

だから、そのためにはどうすればいいかと。私も一米農家のプロとして、これはどうすればいいのかと。土壌を改良すればいいのか、肥料を工夫すればいいのか。これは今後いろいろ農協、県の指導も仰ぎながら、先ほど言われました、42人作付の予定。これらと横の連立を密にしながら、いろいろルールを守っての栽培・作付に取り組みたいと。その暁には、秋には必ずや高い価格で取引されるものと期待しております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） まず、青天の霹靂の販売方法についてお答えいたします。

市で生産された青天の霹靂は、全国農業協同組合連合会いわゆる全農が一元化して販売することになっております。また、青森県は販売方針として、先ほど会長も申しましたように、玄米タンパク質含有率の出荷基準を満たした米のみを青天の霹靂の名称で販売するほか、統一性のある米袋のデザインや販売解禁日の設定、また、生産量が限られることから当面販売エリアは県内を中心とし、一部を首都圏でのイベントなどで数量限定販売することにより、高級感と希少価値感を演出することとしております。宣伝等につきましては、昨年5月末にあおもり米青天の霹靂ブランド化推進協議会というものが設置されておりますし、従来からある県産米需要拡大推進本部等もありますので、それらの中で強力にPRすることになると思っております。

次に、天皇皇后両陛下のPRに関連した御質問でございますが、まず、行幸啓自体の取り扱いについては、全市的な取り扱いとして黒石のリンゴをイメージしたものでPRするしかないのかなというふうには念頭にございまして、市のホームページ等、議員御指摘のホームページの取り扱いについても、今後観光りんご園、あるいは試験場等の紹介する所で少し検討してみたいと思います。また、天皇皇后両陛下が御訪問されたということで、観光りんご園や黒石インターチェンジ付近にその記念としたモニュメントや案内板を設置できないかということにつきましては、園主も含めまして関係機関・団体と協議してまいりたいと思います。以上です。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 確かに追子野木地区は、ちとせ町内などに家を建てるなどして人口増加がされております。今後の児童生徒数の推移を見守りながら検証してまいりたいと思います。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、6番佐々木隆議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、11番工藤和子議員の登壇を求めます。11番工藤和子議員。

登壇

◎11番（工藤和子） 皆様おはようございます。黒石市民クラブの工藤和子です。

任期最後の一般質問となりました。

3月に入りましたら雪解けも一段と加速し、現在、農家の方々は、豪雪による枝折れの確認や、リンゴの剪定作業にいそしみ、またパイプハウスの方々は、苗の定植準備のために排雪作業に精を出しておりますが、片や利用目的が同じ水田地帯にパイプハウスがある方々は、農道の除雪が困難なために、ハウス内の除雪ができないという現実もございます。先日私はこの原稿、前段を書きましたけれども、今朝あのような冬がまた舞い戻ってまいりました。農家の所得向上を願い、100億円農業を目指す本市におかれましては、樹園地だけの除雪だけではなく、農家の方々が希望を持てるようなきめ細やかな配慮があってもいいのではないかなどと思っております。

さて、私は平成23年第2回定例会から平成27年の今回の定例会まで、通算11回の一般質問をいたしました。今回は今まで質問いたしました中から2点に絞り質問させていただきます。

1点目、県道畑中竹鼻線バイパスの市の対応についてお願いいたします。

この質問については平成23年第2回定例会、平成23年第3回定例会、平成24年第1回定例会、平成24年第2回定例会と4度継続的に質問いたしました経緯がございます。

4度目の質問でようやく少し前進した答弁をいただきました。前市長の御答弁は、「県単独事業による路線測量及び道路詳細設計委託料700万が計上されました。大体、私の経験からいきますと調査料・設計料が計上されたということは、間違いなく着工されると思います。4回も諦めないで質問したということは、やればできるものだということを実証したと思います」と前市長のありがたい御答弁をいただいたわけです。さて、その後2年以上経過しておりますが、現在の状況はどのようになっているのか、また、今後の計画と完成の見通しをお聞きいたします。

大きな2点目の質問に入らせていただきます。

短命市返上のための健康長寿市対策について。

この質問も、全国一の短命県の早期返上と健康長寿を願い、平成15年第1回定例会の一般質問で、県による県民総参加の健康づくりと、黒石市独自の施策を早急に確立し、受け身ではなく、県を引っ張っていくような積極的な取り組みを求めました。また、平成16年12月議会では、埼玉県立大学が企画監修した調査結果を受け、短命市返上に向けた一般質問をしております。

このときの前市長さんの前向きな御答弁に、私は議会でかつてない感激を覚えたことは、今でも忘れることができません。

前市長さんの御答弁は、「市長みずから先頭に立ち、限られた予算の中で市民を巻き込んだ一つの運動を検討する」と力強く約束してくれたわけです。現在、この御答弁に基づき、担当者の鋭意努力によって、保健活動のまとめ「健康長寿市をめざして」健康くろいし腹八分目運動ができたわけです。

保健活動のまとめでは、健診率の向上や健康教育等の参加者には増加が見られ、一定の成果が出ていると私は理解しておりますが、最終目的である平均寿命の改善には、いまだ到達しておりません。このことは自分の健康は自分で守るという市民意識、県民意識の欠如にあるのではと思えてなりません。また、平成26年第2回定例会において、健康寿命アップの取り組みについて質問いたしました。

その時の御答弁は、「ペニシリンを打つようにすぐ効果が出るものではない。西部地区をモデル地区にする。保健協力員を組織化し、行政と地区と一緒に活動することによって健康寿命を伸ばすような御答弁だった」と記憶しております。

さて、前市長さんが花火を上げてから10年経過し、先月2月21日、中央スポーツ館において「黒石市健康都市宣言市民のつどい」が大々的に開催され、市長始め、市職員、市民総勢500人余りが力強い宣言をしました。市長さんは、宣言は汚名返上の第一歩にし、宣言の柱は、保健協力員の組織化と一市民スポーツ、また、義務教育での健康知識習得も盛り込み、これらを3本柱とし、短命市返上に意欲的に取り組む覚悟であります。私も大賛成です。

そこで、弘前大学大学院医学研究科長中路教授は、「短命の現状は社会力のなさ、自治体の力のなさをあらわしているとはっきり認識すべき」と断じ、「改善には全市をあげて取り組む姿勢が不可欠だ」と強調し、「成果が出なければ意味がない。この宣言も絶対短命市を返上するという強い意志を市職員、関係者が持たなければ、市民には響かないでしょう。この宣言はスタートである。一過性のものにせぬよう、宣言後の定期的な検証と結果の公表を求めます」と述べております。

そこでお伺いいたします。すぐ結果があらわれるわけではありませんが、定期的な検証と結果をどのように公表するのかお知らせください。

以上、壇上での一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長(村上啓二) 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時48分 休憩

◎議長（村上啓二） 休憩前に引き続き会議を開きます。

11番工藤和子議員の一般質問に対する理事者の答弁を求めます。市長。

登 壇

◎市長（高樋憲） 工藤和子議員にお答えいたします。

私からは短命市返上のための健康長寿市対策についての定期的な検証と結果の公表についてお答えいたします。

市では、短命市を返上するために各種検診を受けやすい体制の整備や保健協力員による健診の呼びかけに力を入れるとともに、肥満を要因とする生活習慣病の発症を予防するために平成18年度から腹八分目運動を実施してまいりました。

その結果、がん検診の受診率は、胃がん、大腸がん、肺がん、ともに5%から8%受診率がアップいたしました。平均寿命も平成12年度は男性が74.7歳、女性が82.6歳であったものが、昨年厚生労働省から発表されました平成22年の市町村別生命表では、当市の男性が76.7歳、女性は85.4歳で10年前と比較いたしました男性は2歳、女性は2.8歳の伸びが見られました。

これは全国平均の伸びよりも大きな伸びとなっております。

また、先ほど議員もお話ししておりましたし、また参加していただきましたけども、「健康に関心・身体に健診・ここに安心」のスローガンのもと開催いたしました「黒石市健康都市宣言市民の集い」には500人を超える多くの市民が参加し、行政と地域が一体となって、短命市返上のため活動することを宣言したところです。今後も短命市返上の活動を図るとともに定期的に検証し、市報・ホームページなどで結果を公表してまいります。私からは以上です。その他につきましては担当部長より答弁させます。

降 壇

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは、県道畑中竹鼻線バイパスへの市の対応、今後の計画と完成の見通しについてお答えいたします。

県道畑中竹鼻線バイパスにつきましては、県の道路事業として整備が進められているところですが、先ほど工藤議員がおっしゃったとおり、県が平成24年度に実施した路線測量及び道路詳細設計をもとに、今年度は、主要地方道大鰐浪岡線との交差点部分を拡幅整備するための詳細設計調査を実施しております。さらに平成27年度には、主要地方道大鰐浪岡線との交差点部分の拡幅整備に必要な部分の用地測量を実施する予定であるということ、担当部署である青森県中南地域県民局から聞き及んでおります。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

(なし)

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。11番工藤和子議員。

◎11番（工藤和子） ありがとうございます。

まず、県道畑中竹鼻線バイパスについてですが、やはり地元の人たちが非常に首を長くして待っているわけですし、今後とも、何とか市が窓口になり、今以上に、先ほど御答弁なさったように信号のところの拡幅とかわかりましたけれども、本格的な着工に向けてのそういうことを常に常に市のほうから働きかけるよう、お願いいたします。

それから、短命市返上ですけれども、先ほど市長さんの御答弁で、やっぱし10年経ったら若干寿命、平均寿命がちょっと伸びてましたけれども。今、長野県の佐久市ですけども、なぜ長生きなのかということで、少し調べてみました。

まず、佐久市と黒石市の違いは何であるのかと。私も佐久市のほうには行ってまいりました。最近じゃないですけど、10年くらい前に行ってまいりました。黒石市では保健協力員っていう名前で協力員さんおりますけども、佐久市の場合は保健指導員さんなんですね。それで保健指導員制度というのがありまして、任期が2年なんです。それによって要するに健康に関する知識を持った人たちが2年交代なので、ずっと広がっていくわけです。うちのほうはですね、指導員、指導員じゃない保健協力員さんは200、ごめんなさい佐久市は200人に1人、黒石の場合は225人に1人。まあ、大して数字は25人くらいの差ですけども。何が違うかといえば、同じ協力員さんの方がずっと継続している。それによってパワーがだんだん、年いってくるとごで、パワーが落ちてくる。裾が広がらないっていう、そういう問題もあるわけです。

それからですね、大事な役割をしている保健師さんですけども、黒石の場合は人口3万6,000人に対して11人。佐久市のほうは2,000人に1人の保健師さんがいるわけです。で、私言いたいのはですね、これを本格的に、もうみんな一生懸命市民取り込んでやろうとするならば、先日、弘大の教授が来ました、中路先生。中路先生はやはりこの健康、これを考えるんだったら財政力がやっぱし必要だっていうことをおっしゃってます。何とか、この保健師さんの拡充みたいな、そういうことのお考えはないんでしょうか。お願いいたします

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 工藤和子議員の質問にお答えいたします。

工藤和子議員が平成15年3月議会において、青森県は全国一の短命県であると。その中でも黒石市は下位に位置することから、健康で長生きできる黒石市を目指して、独自の対応が必要ではないかという御質問をいただいております。それもありまして、その後、それまで以上に各種健康づくり事業を実施してきたことは、工藤議員も既に御案内のとおりだと思います。

保健協力員に関しましてですが、佐久市という今お話でしたが、佐久市、長野県そのものが

保健補導員というような言い方をしておりますけども、保健補導員は佐久市と同様、うちも保健協力員の任期は2年となっております。

おっしゃるように長野県は2年経つと交代ということで、こないだ中路先生もおっしゃってましたが、2年やるとかわれるからやるとい、長野もそういう意気。なんていうんですかね、自分からやるっていう話じゃなくて、2年でかわれるからやるとい人が多いんだそうですが、1回やると、やっぱりなかなか興味を持って、その後OGになったりOBになっても続けてくれるというお話をしておりました。当市では、なかなか、各町内からの推薦で決めておりますけれども、後任者が見つからないという町内がものすごく多い状況が続いております。ほとんどの方が継続して従事していただいております。なかなかそういう状況が改善できないので、それであれば逆に、行政だけで大きな効果を上げることができないので、保健協力員の研修会を新年度から、今まで年2回であったものを年6回にふやして、いろいろな健康教養を高めていただきたいと。それから、組織化を図って、それぞれの地域・町内で組織をしてもらって、それぞれの保健協力員さんたちが、いろんな活動の中心になって各地域から健康づくりの事業に取り組んでいただけるような体制をつくっていただきたいというふうに考えております。そういうふうな形で実施していきたいと。

それから、保健師の数ですけれども、長野県そのものも保健師すごく多いんですが、青森県全体としては長野県と比較すると大分少ないです、青森県全体としても。県内10市のうち弘前・八戸・青森、まあ大きいので別として、他の7市と比較してみますと、黒石が1人当たり、保健師1人で見ると3,000人くらいということですが、一番少ないのでつがる市が1人で2,000人、それから一番多いのが三沢市の3,700人、黒石の3,000人はちょうど中間より……。ううん3,000人。議員がおっしゃるのは保健師の総数と人口もあるんですけど、実際の保健業務に携わっている保健師、うちも本当は12人いるんですけども2人介護のほうに出稼ぎに行ってますので、今実際に保健のほうの仕事をしているのは10人しかいないんですよ。そういう意味でいくと、そういう感じになります。

昨年も、今の新年度からの採用についても募集をしました、保健師の。応募は1人あったんですが、受験に来ませんでした。残念ながら採用できなかったんですけども、人事担当とも話をしながら極力、定数の範囲で保健師の採用もお願いしていきたいというふうに思っています。ただ、うちの保健師、今12人いますけども、1人で3人分も4人分もする、仕事をする保健師なので大変優秀です。今のところその人数で頑張ってるんですが、できるだけいたほうがいいので、人事当局のほうにもお願いしていきたいと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは、今後の計画と完成の見通し、市の協力についてお答えい

たします。

県事業であることから、工事の着手や完成見通しについて明言できる立場にありませんけれども、県に対して毎年事業促進の要望をしております。市としても、県と地権者の方々との間に入り調整するなど、できる範囲で協力をしてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、11番工藤和子議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、7番後藤秀憲議員の登壇を求めます。7番後藤秀憲議員。

登壇

◎7番（後藤秀憲） 黒石市民クラブの後藤秀憲です。通告に従い順次質問させていただきます。今期最後の一般質問となりますので、理事者側の答弁のほどよろしく願いいたします。

まずは、市道浅瀬石・袋線の整備について、質問いたします。

市には多くの観光資源が点在しております。平成25年度の黒石市の観光入込客数は約76万人で、そのうち、津軽伝承工芸館・津軽こけし館・中野もみじ山などを有し、八甲田、十和田湖観光の西の玄関口である黒石温泉郷の入込客数は、約51万人と聞いております。特に中野もみじ山はライトアップ効果もあり、ここ数年多くの観光客でにぎわっており、このため、春から秋の観光シーズンを中心に、多くの観光客が訪れており、黒石温泉郷地区と、その周辺を中心に観光渋滞が頻繁に発生しております。

国道102号と国道394号は地域の観光産業を支える重要な道路であります。観光渋滞は、観光地にとって大幅なイメージダウンにつながるとともに、観光客や地元住民にも大きな負担となっており、観光渋滞の緩和が求められております。

道路は、市民の日常生活や経済活動を支える社会資本であります。交通の円滑化を確保することにより、観光振興や地域活性化に大きな効果が期待できるものと思います。

市長の公約に、里山を活用した6次産業プラスワンで、田園観光都市を目指すとあります。

市街地と黒石温泉郷を結ぶ、市道浅瀬石・袋線の改良工事を進め、黒石温泉郷地区の慢性的な観光渋滞の緩和を図るとともに、黒石観光りんご園から中野もみじ山まで、観光施設アクセス道路としての役割を担う道路として整備を進めるべきと思うが、市の考えをお知らせください。

次に、黒石観光りんご園の施設整備について質問いたします。

昨年9月に1泊2日の御日程で、天皇皇后両陛下が、東日本大震災からの復興状況などを視察するために本県を御訪問になりました。

両陛下は、25日に本市を御訪問になり、昭和41年に次いで2度目の御訪問と聞いております。出来秋を迎えた黒石観光りんご園を視察され、たわわに実った真っ赤なリンゴ「つがる」を

収穫されております。りんご生産者にとっても大変名誉なことであり、大きな励みになったことと思います。

黒石観光りんご園は、広大な津軽平野と岩木山を一望できる眺望のよい場所に位置し、リンゴの花が咲く時期や、8月から11月までのリンゴの収穫時期には、多くの観光客が訪れており、また、弘前方面の夜景も楽しむことができ、観光スポットの一つとなっております。

市は、昭和43年度に駐車場・休憩施設を設置し、黒石りんごのPRや観光案内を初め、りんご狩り、物産の販売などを行ってきましたが、設置後47年が過ぎようとしており、施設の傷みが激しく、観光客のイメージダウンにつながっているなどと、対策が必要だと思っております。

風光明媚な地理的な特徴を最大限に生かし、観光客などの満足度を高めることが必要だと考えます。

天皇皇后両陛下が視察された記念として、季節ごとにリンゴと親しみ、より多くの人に農業に対する理解を深めていただくとともに、家族や仲間とのんびり過ごすことができる、憩いと安らぎの場所として整備してはどうか、市の考えをお知らせください。

次に、遊休農地対策について質問いたします。

農業者の高齢化や担い手の不足、農地条件が悪いなどの理由により耕作を放棄する農地が今後ふえるものと見込まれます。遊休農地がふえると、病害虫が発生するなど周辺の農地への悪影響が心配されます。また、農村の景観や生活環境が悪化するなど深刻な問題にもつながります。このため遊休農地の発生防止や解消対策に行政・農業委員・JAが連携し積極的に取り組む必要があると考えております。

全国の自治体の解消事例として、市民グループ、ボランティアなどによるコスモス・ヒマワリなどの景観作物を作付し、憩いの場として活用、また、花卉・野菜・果樹などの栽培用地に活用するなど、多種多様でさまざまな取り組みが展開されております。

そこでお聞きいたします。栽培が比較的容易で生産経費が少ない作物を、遊休農地に作付を行うことを目的とした研究会などを組織し、モデル的な取り組みを実施してみたらどうか、市の考えをお知らせください。また新年度における遊休農地解消に向けた市の取り組み内容についてもお知らせください。

以上をもちまして、壇上からの一般質問を終わります。どうも御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長(村上啓二) 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長(高樋憲) 後藤議員に御答弁させていただきます。私からは市の農業政策についての、

遊休農地への対応について御答弁いたします。

遊休農地解消に向けた対策につきましては、今年度から事業を開始した農地中間管理機構、日本型直接支払制度や耕作放棄地再生利用緊急対策で畑の勾配や条件整備を図るなど、遊休農地解消に関する事業を活用したり、農業委員会の「農地利用状況調査」結果をもとに、遊休農地再生利用希望者と地権者のマッチングを行うことにより、遊休農地の流動化や再生利用が図られることが大いに期待されてるところであります。

今後、国・県と連携し、農業生産活動が継続され、集落活動の維持が図られるよう、さまざまな支援策を活用しながら、遊休農地の解消に向けてまいりたいというふうに考えております。私からは以上です。ほかにつきましては関係部長より御答弁をさせます。

降 壇

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、観光りんご園への対応と、それから遊休農地の対応について、2点についてお答えいたします。

まず、観光りんご園でございますが、これまでの観光りんご園の経緯については、先ほど議員も御指摘のとおりであります。昭和40年当時、黒石温泉郷と中野もみじ山以外、取り立てて観光施設がなかったことから、昭和43年8月に黒石市農業協同組合の全面的な協力を得て黒石観光りんご園事業を開始し、開園当時から平成3年度にかけて休憩所、駐車場等の整備を実施しております。

運営については、昭和48年から平成2年まで、黒石市と黒石市農業協同組合から補助金を受けまして黒石観光協会が運営しておりましたが、経営的面等から平成2年に黒石市農業協同組合、黒石観光協会が撤退したため、土地等の所有者である市が隣接の園地所有者の協力を得ながら、現在のような運営形態をとっております。

施設等につきましては、議員御指摘のとおり、老朽化も相当進んでおりますが、園主と協議し、必要な修繕費等につきましては、これまでも進めてきております。また、使用期間を含めた施設の管理体制、休憩の場所としての整備等につきましては、農作業時期に配慮した形で、どういう形ができるか園主とも協議して今後検討したいと思います。また、PR等につきましても同様に、農作業に配慮した形で、先ほどの天皇皇后両陛下の行幸啓に関することも含めまして検討させていただきたいと思います。

次に、遊休農地に向けたことに関する御質問でございますが、まず、実態調査の結果でございますが、黒石市では実態調査を実施します農業委員会では、実際に作付している土地から全く原野・山林化している土地まで5段階に区分しており、そのうち、いわゆる草やそういう低木が生えているほぼ2段階のものを、農地法の第32条で規定されている「耕作放棄と呼べる」

に定義しており、この数値が主に中山間を中心として全体として317ヘクタールございます。内訳としては、山形地区が182ヘクタール、浅瀬石地区が34ヘクタール、六郷地区が101ヘクタールとなっております。

ちなみに、耕作していないものの保全管理されている農地が、山形地区は88ヘクタール、浅瀬石地区が22ヘクタール、六郷地区が43ヘクタールで、これはいつでも復帰できる状態というふうに考えております。

また、既に原野・山林化されている農地が98ヘクタールあり、これは農地として再生困難であるため、国もそういう方針で進めていくというふうに伺っておりますが、非農地化を進めていくということにしております。議員御提言の、いわゆる先進事例等も含めました対応につきましては、例えば昨年度から農道除雪等につきましても、中山間の組織等を活用したもので取り組んでいただくなど、幾らか前進しておりますので、そういう形でこういうことが行えないかどうかについては、若干、話し合いの場を持ちたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは市道の整備、浅瀬石・袋線への対応についてお答えいたします。

市道浅瀬石・袋線については、後藤議員のおっしゃるとおり、観光りんご園や温泉郷へのアクセス道路であるとともに、浅瀬石地区と山形地区、さらにりんご園など農地へのアクセス道路として大変重要な路線であることから、平成23年度より舗装補修工事を実施しております。今後も継続して舗装補修工事を進めていく予定であり、できる限り早期での完成を目指しております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。7番後藤秀憲議員。

◎7番（後藤秀憲） 御答弁ありがとうございます。

観光りんご園についてですけど、私、ことし非常に目立ったのが、建物の雪下ろしが全然してなかったのが記憶あります。そういうものに対しては、予算とかがついていないのかひとつお聞きしたいと思います。

あとそれから、市道の浅瀬石・袋線、これは早く整備していただきたいと思います。ということですね、まず黒石インターから観光りんご園、津軽伝承工芸館、中野もみじ山をつなぐ重要な、私は道路だと思います。ということは観光バスが結構あそこを動いてる、行き来してきます。それで去年、天皇陛下が来る前は、でこぼこで大変な道路だったなと思ってます。記憶があります。もし観光バスがですね、そのでこぼこ道路にハンドルを取られて、ガードレール

がついてるところにもついていない、そのガードレールを突き破って重大事故になった場合、これはどうなんでしょうか。市の責任になるのか、どこの責任になるのか、わかる範囲でいいので教えていただければと思います。

あとそれから、将来的なことなんですけど、高樋市長は里山を活用した6次産業プラスワンで、田園観光都市産業を目指すとっております。黒石市は将来的にですよ、弘前南部広域農道、通称アップルロードなんですけど、石川までできてます。これを石川から平川経由をし、黒石観光りんご園までのアクセスを考えて、観光産業道路として計画を考えるべきではないかと思っておりますけど、わかる範囲でいいので、ひとつよろしく御答弁お願いします。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 除雪、屋根の雪下ろし等について、それ以外のものについても、緊急な場合は対応しております。ただし、基本的には園主が配慮してやっておられております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 当該路線につきましては、現在、社会資本整備総合交付金で対応してございますけれども、市が要望する額よりも大体3割から4割減額されてくるという状況でございます。天皇皇后両陛下がおいでになったときも、職員が休日対応で穴埋めに尽力したということでございます。道路につきましては、やはり事故があった場合、市の対応も必要になると考えられることから、その内容について詳しく、後で調べたいと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 先ほど後藤議員がアップルロードの延伸のお話しありました。あれはですね、アップルロードそのものが、国道7号にぶつかるまでがアップルロードっていう区間になっております。ですから、7号から浪岡方面に関しましては、これはアップルロードっていう位置づけではなく、幹線道路、県の幹線道路としての改良工事として今までやってたというふうに、私は認識いたしておりました。

後藤議員御提言にありました、あのルートを黒石の観光産業に生かすっていう部分は大変意義のあることでありますので、その辺につきましても今後協議し、検討していきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 以上で、7番後藤秀憲議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、9番大溝雅昭議員の登壇を求めます。9番大溝雅昭議員。

登壇

◎9番（大溝雅昭） こんにちは、自民・公明クラブ大溝雅昭です。平成27年第1回定例会におきまして、3期目最後の一般質問、そして議員になって47回目の一般質問をさせていただきます。

きょうは3月11日であります。昨年もちょうどこの日に一般質問で登壇しており、東日本大震災の話をしました。4年前の平成23年3月11日14時46分18秒、マグニチュード9.0の地震が発生しました。この地震による巨大な津波が発生し、死者・行方不明者は関連死者を含めると2万人以上もいると言われております。福島第一原発は、全電源を喪失して原子炉を冷却できなくなり、メルトダウンが発生しました。その後、水素爆発により原子炉建屋が吹き飛び、大量の放射性物質の漏えいを伴う重大な原子力事故に発展しました。日本の未来についての考え方が大きく転換する日となりました。家族を失った方々にお悔やみを申し上げますとともに、放射線の影響や土地利用の制限などで復興が進んでいない所もまだ多く、23万人がまだ避難生活をしております。一日も早い復興と安心できる生活の再建を願うものであります。

それでは通告に従い質問をいたします。

1番目は、健康都市宣言についての質問です。

2月21日黒石市は健康都市宣言をしました。青森県は全国で短命県ナンバーワンであり、当市も上位にあります。健康都市宣言は、短命県返上を目指す県の方針に沿った事業でもあり、大いに期待するものであります。しかし、宣言をするだけでは状況は変わりませんので、これからの取り組みなどについて、現在の状況、課題と方法そして目的設定、再評価をどう取り入れるかなどについての質問を行います。工藤和子議員の質問と重複するところもありますが、よろしく願いいたします。

まずは、アの検診率の向上と生活習慣についてです。短命の理由は何か、現状と問題点は、検診率と生活習慣についての数字はどうなっているのかお尋ねします。

次は、イの健康スポーツの取り組みについてであります。健康につながるスポーツとしてレクリエーションスポーツなどがありますが、その現状はどうなっているのかお尋ねします。

次は、ウの健康都市連合についてであります。健康都市に向かい、今後の広がり、独自の方向性を確立するためにも、WHOの健康都市連合への加盟や、「Smart Wellness City首長研究会」等への参加、普及、及び連携は考えているのかお尋ねします。

ちなみに、健康都市連合とは、WHOの呼びかけで設立された地方自治体・政府・NGO・国際機関などからなる組織で、日本支部には全国の41自治体と3協力団体が加盟しております。

「Smart Wellness City首長研究会」は「健幸」一の幸は幸福の幸であります。 「健幸」をまちづくりの基本に据えた、新しい都市モデル「Smart Wellness City」の構築を目指す首長の同志が集まり、平成21年11月に発足しております。

2番目は、教育と子育て問題についての質問です。

まずは、アの教育委員会制度の改革についてであります。教育委員会制度を見直し、地方自治体の首長の権限を強化する地方教育行政法が改正され、4月1日より施行されることになりました。戦後にできた教育委員会制度の大きな転換だと考えます。例えば今までは教育委員長と教育長の立場の違いがよくわからないところもありましたが、これからはどう変わるのかお尋ねいたします。

次は、イの学力の向上についてであります。平成26年12月に学力調査の結果の記者発表がありました。黒石市の状況については驚くべき結果が出たと言わざるを得ません。小学校・中学校の学力調査の結果とその理由についてお尋ねします。

次は、ウの不審者対策についてであります。ことしの1月31日に福岡県豊前市で行方不明になった小学5年女子児童が、2月1日になり遺体となって見つかりました。また、2月5日には和歌山県の紀の川市で小学5年男子児童が近所に住む若者に殺された事件がありました。市内でも不審者のうわさが出ております。不審者の現状はどうか、3年間の数字はどうなっているのかお尋ねいたします。

次は、エの子育て世代包括支援センターについてであります。政府は、平成27年度全国で150の地域で子育て包括支援センターをつくり、その事業を始めようとしております。その中身はどのようなものなのかお尋ねいたします。

3番目は、観光行政についての質問であります。黒石市の観光にとっては交流の人口の増加と滞在時間の確保が重要となります。

まずは、アの駅前前の観光案内所についてであります。27年度に設置しようとしている観光案内所の中身は何か。いつ、そして、どのような機能を持つのかお尋ねいたします。

次は、イの案内板の設置についてであります。金平成園、松の湯交流館は27年度内に整備が終わろうとしていますが、これに伴い、合わせて案内板、サインが必要ではないかと考えます。案内板が必要な要件といたしまして、駅からこみせ通りへの誘導、高速道路からこみせ通りへの誘導、駐車場への誘導、現在地の表示、観光地の説明や案内などが挙げられます。これらの案内の優先順位について、どのように考えているのかお尋ねいたします。

さて、これから市内の中学校、小学校の卒業式があります。毎年同じことの繰り返しのようではありますが、子供たちにとっては一生に1回のセレモニーであり大切な思い出になります。子供たちの未来に幸多かれと願うとともに、子供たちの未来のための環境をつくる我々の責任も大きなものであると考えます。ふるさとに誇りを持ち、広い視野を持つ、心豊かな子供たちを育ててゆかなければなりません。

以上をもちまして、檀上よりの質問を終わります。ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 大溝議員にお答えいたします。私からは観光行政、駅前の観光案内所について答弁させていただきます。

まず、来年度開館の予定で進められております国の名勝指定「金平成園」や、観光案内所機能も有します「松の湯交流館」、そのほかの観光拠点を結び、本市観光のさらなる発展並びに充実の第一歩といたしまして、当市の玄関口の一つであります黒石駅前に案内機能の整備が必要であるという考えに至り、このたび、事業化する運びとなったわけであります。

本事業の運営は、直営という形ではなく、観光案内所業務を請け負っていただける団体に対する補助金という形で実施することといたしております。

来年の北海道新幹線開業に伴って実施されます「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」に先駆け、ことしの7月に青森市で全国の旅行関係者約800人を招き「全国宣伝販売促進会議」を開催されることとなっておりますことから、黒石駅前の観光案内所の開設時期については、この「全国宣伝販売促進会議」と当市の夏祭りの開催時期となる7月を運営開始時期と設定し、準備を進めていく予定といたしております。

次に、案内所の機能についてであります。駅前観光案内所は弘南鉄道黒石駅前の空き事務所を想定いたしており、主にJRからの乗り継ぎ客やバスを利用しての観光客に対する的確な観光案内はもとより、従来からの電話での問い合わせの対応やインターネット等による観光情報の提供、発信していただくことを考えております。私からは以上です。その他につきましては、関係部長より答弁をさせます。

降壇

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 私からは教育と子育て問題、教育委員会制度の改革について、どのように変わるのかという問いにお答えいたします。

まず、第1点目に、教育行政の責任体制を明確化するため、教育委員長と教育長を一本化した新たな責任者である新教育長を置くこととし、市長が議会の同意を得て任命することとしております。任期は新教育長のみ3年であります。

ただし、経過措置として旧制度から新制度への教育の継続性・安定性を確保する観点から、平成27年4月1日に施行日において在任中の教育長については、その教育委員としての任期が満了するまで、旧制度の教育長として在職するものとしております。

次に、2点目として、市長と教育委員会が協議・調整する場として市長が招集する総合教育

会議を置くこととなります。市長はこの会議において、教育の目標や施策の根本的な方針である大綱を策定することとしており、両者が教育政策の方向性を共有し、一致して執行に当たることが可能となりました。

以上が最も大きく変わる点となります。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは健康都市宣言の中の、ア、検診率の向上と生活習慣について、それから健康都市連合について、2の教育と子育て問題の、子育て世代包括支援センターについてお答えいたします。

まず、検診率の向上と生活習慣でございます。

市の死亡原因では、がんが第1位を占めております。次いで循環器疾患や糖尿病等の生活習慣病が死因の約6割を占めております。

市のがん検診の受診率は、平成25年度胃がんが30.8%、大腸がん36.6%、肺がん36.8%、子宮がん27.3%、乳がん28.2%で、先ほどの答弁でも申しました、以前から比べると6%から8%くらい伸びておりますけれども、国の目標である受診率50%までは、まだまだ達していない状況です。また、生活習慣病を予防するための特定健診の平成25年度受診率は35.4%で、平成29年度目標、国の目標ですが、60%までは難しい状況です。

次に、統計資料から市民の生活習慣の中で、一日の飲酒量が3合以上の人の占める割合が高く、喫煙率も男性32.8%、女性9.6%と全国に比較しても高い数値となっております。

また、食塩の摂取量も全国で多いほうから男性15位、女性17位となっております。

さらに、糖尿病や循環器疾患等の生活習慣病の大きな要因と考えられる肥満については、平成25年度の特定健診の結果では、25.1%、4人に1人が肥満となっており、生活習慣の改善に継続的に取り組むことが重要と考えられております。

次に、健康都市宣言の健康都市連合についてであります。

健康都市連合は先ほど大溝議員がおっしゃったように、WHOのほうで提唱しているものですけれども、本市としては、現時点では参加や連携の考えは持ってはおりません。ただ、きめ細かく広くアンテナを張り健康都市に関する情報を収集し、地域の特性に応じた健康都市の実現に努めたいというふうに考えております。「Wellness City」も同様でございます。

ネットワークを築くということは大切ではございますけれども、それぞれ各地域にあった健康づくりというものも必要ですし、他の自治体との連絡や情報交換は十分必要だというふうに認識はしてございます。

次に、子育て世代包括支援センターでございますが、国の今回の地方創生の事業の中に一つ入っているわけですが、センターという形で職員を置くと。置く職員というのは、助産

師・保健師等の専門職、それにソーシャルワーカーを置くというふうになっております。中身ですが、全ての妊産婦等を対象に、関係機関との連携・情報共有を図り、妊娠期から出産子育て期にわたるまでのさまざまなニーズに対して、ワンストップで総合的相談支援を提供する拠点となる場所というふうに定義されております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは、案内板の設置、優先順位はどのように考えているのかについてお答えいたします。

案内板については、数が多くあればよいということではなく、重要なポイントにわかりやすい表示で設置することが必要であると考えております。特に市街地においては、市の玄関口となる弘南鉄道黒石駅及び広域的な流入路となる国道102号、主要地方道大鰐浪岡線から、こみせ通りや金平成園などの主要な観光資源への誘導が、最も優先されるべきであると考えております。

このことから、その主要な観光資源を起点に、各情報が得られるための環境を整えるとともに、市街地では一方通行が多い状況であることから、駐車場にも円滑に移動できるよう、対応の充実を図ってまいりたいと思っております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは健康都市宣言の、健康スポーツの取り組みについてお答えします。

児童から高齢者まで、幅広くできるスポーツとして普及してきているレクリエーションスポーツは、本市でも徐々に盛んになってきております。

今年度も9月に行った黒石市レクリエーションスポーツ祭では、健康ウォーキングやラケットテニス及び室内カーリングなど6種目に約150人の参加があったほか、各学校の親子レクリエーションや出前講座でもレクリエーションスポーツの利用がふえてきている状況であります。以上です。

◎議長（村上啓二） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（宮崎晃一） 私からは、大溝議員の学力の向上について、それから不審者対策についてお答えいたします。

学力の向上については、平成26年度学習状況調査の結果とその理由についてということですが、平成26年度県の学習状況調査は、小学校5年生と中学校2年生を対象に実施されました。教科全体で見ますと、小学校は、県平均通過率60.3%に対し、黒石市は63.2%で2.9%上回っております。中学校は、県平均通過率53.9%に対し、黒石市は46.6%で7.3%下回っております。

通過率とは、いわゆる正解率のことですが、まず、小学校の結果の理由として、国語や算数

の授業を中心に、指導方法の工夫・改善が一層図られていることや、家庭学習についても保護者の協力を得ながらしっかりと行なわれていること。学校によっては、放課後や長期休業中の補充学習の積み重ねなどにより、好成績をおさめているものと思われます。

一方、中学校については、授業における小テストの継続やグループでの学び合い学習による基礎・基本の定着が認められます。また、興味・関心を引き出す教材・教具の活用が意欲向上に役立っております。反面、既習事項のつまずきがそのままになっていることや理解不足が、成績の伸び悩みになっていると思われます。

次に、不審者対策について。

不審者現状について過去3年間の件数、特徴はということについてお答えいたします。

黒石市教育委員会が情報提供を受けた過去3年間の不審者情報は、平成24年度は13件、平成25年度は10件、平成26年度は2月現在11件で、計34件です。

不審者情報における特徴を見ると、内容で1番多いのは声かけが15件、次に多いのは、腕をつかまれる等の実害があったのが11件。コンビニ強盗2件を含むその他が8件です。季節別に見ると、多い順に夏11件、春9件、秋8件、冬6件です。時間帯では、多い順に下校時間に当たる夕方が16件、登校時間帯に当たる朝方が12件、昼及び午後6時以降が同数で各3件です。

以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 再質問に入りたいと思いますけど、答弁があっち行ったりこっち行ったりしていますので、一応通告の順番で再質問のほうはしていきたいと思いますので、よろしく願いします。

まず、短命市返上についての数字がいろいろ出ましたけど、やっぱりいいものではないなど。原因があるから結果が出るわけですね。ですから、これから具体的にどのような対策を行っていくのか、まずお尋ねします。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 対策でございますが、先般、市民の健康意識を図るため、健康都市宣言をいたしました。短命を返上し健康長寿を目指すためには、疾病予防がまず基本でございますけれども、各種検診の受診率をアップさせ、疾病の早期発見・早期治療につなげることが最も重要だと考えております。

各種検診の受診率向上のため、平成27年度から健康マイレージ事業の実施や、保健協力員による検診の周知を徹底し受診率向上を図ってまいります。

また、循環器疾患や糖尿病対策として、現在西部地区を重点とした地区活動を行っておりますけれども、それを他の地域にも拡大し、重症化予防を目的とした保健活動を実施してまいりたいと考えております。

具体的な目標ですけれども、健康くろいし21計画で、がん検診受診率を平成35年度50%、特定健康診査の受診率を平成29年度60%を目標にして頑張っていきたいと思っております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 具体的な目標まで言っていたので、本当は聞こうと思ったんですけども。目標設定をどこに持っていくかですね。一番下なのでまずは平均を目指すのか、もしくはトップを目指すのか、その辺でやり方は変わると思うんですけども。目標を聞こうと思ったんですけど目標をしゃべられてしまって、じゃあ、その次で行きましょう。

先進的な取り組みとして、いろんな評価の仕方があると思うんですけど、健幸クラウドやデータヘルスという先進的ないろんなやり方がありますので、そういう取り組みで効果的に施策の分析・評価を実施する考えなどがはるかお尋ねします。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 目標については、国が決めている目標です。がん検診の受診率は50%、特定健診は60%、国の目標と同じものにしております。

データヘルス等の取り組みについて、どういう考えをしているかということですが、健康長寿の延伸を図るためには、国保の診療明細報酬や健診データを活用して、そのデータ分析に基づいて行うデータヘルス計画ということですが、大変重要であるというふうに考えております。

今後、国保のデータベースシステムを活用し、客観的な数値の変化で発症予防・重症化予防を評価して、改善を重ねた保健活動を推進したいというふうに考えております。もう国保連からはデータについては提供されておりますので、あとそれをどう加工していくかということですが、随時研修に今、出しております。データヘルス計画をつくって、それに基づいてやっていきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） データの活用は、もうやるだけというところになっていると思いますので、よろしくお願ひしたいと思っております。特に、私が健康都市宣言で感じたのはですね、短命県返上は長生きをするのじゃなくてですね、若死にする人を減らすことが一番重要であると弘前大学の中路先生がおっしゃっていました。これからそこを本当に頑張っていけないといけないのかなど。長生きがいけないというのではなくてですね、目標をですね、そちらに持っていかなく

ればならないと思うものであります。

じゃあ、それから次はですね、スポーツの取り組みについて、健康スポーツの取り組みについてでありますけれども、健康増進につながるスポーツの環境をですね、結局ふやしていかないといけないので、スポーツ環境づくりについてどのように進めていくか、対策など環境づくりについての考えをお願いします。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 健康増進につながるスポーツ環境づくりについては、黒石運動公園やスポカルイン黒石を初め多くの運動施設があり、比較的施設には恵まれていると考えております。このことから、これらを有効利用してもらうよう市民や団体に働きかけていきたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 比較的恵まれてると言っているんですけども、私は余りそう恵まれているような気はしないんですけども。具体的にどういうふうにやっていくのか、目標などがあるのかお聞きします

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） スポーツには健康増進につながる大事な役割を果たしていることから、今後は楽しくできるレクリエーションスポーツや、大溝議員にも御参加していただいているスポーツ教室のほか、市民の文化財等をめぐるウォーキングを実施するなど知識と体の健康づくりを目指し、一人でも多く参加できるような企画をすることで、健康都市宣言の3つの柱の1つである、「一市民一スポーツ」の普及に努めてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） スポーツの取り組みについては、ぜひとも数ですね、結局どのくらいの人数が参加しているのか、また、そのスポーツにかかわる団体数、一番重要なのはやはり種類ですね。健康スポーツですので、いろんな種類をふやして、それに接する機会をふやすということで、やはり種類等もふやしていくと。そういふうな数を実際ふやしていくようにお願いしたいと思います。

それでは、健康都市関連では最後にネットワークのお話なんですけれども、大きなネットワークには今のところ参加する気はないということなんです。それはそれでいいんですけども、県内でも、例えば平川市でもまたやると聞いてますし、やはりこういうのはある程度、特に青森県ですので県内の情報を取り合いながら、できれば競い合いながらですね進めていければもっと効果的には上がると思うんですけども。その辺、県内のネットワークとかについて

の取り組みについて考えがあるのかお聞きします。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 先ほども申しましたが、他自治体との連携、それから健康づくり団体との連携等は大変重要だというふうに考えております。現状でも近隣市町村、今おっしゃたように、平川市とか弘前市等の健康推進の担当とは、いろいろ情報を交換しながらやっておりますけれども、今後、県のほうなりが大きなネットワークをつくっていただければ、当然それには入って行って情報をいただいたり、こちらからまた情報を提供したりという形にはなると思います。何せ今、ネットでいろいろな情報が入ります。

今、先ほどもおっしゃったように、健康都市連合なり「Wellness City」首長の連合なり、その情報も入っておりますけれども、今のところその健康都市連合入ってあんまりメリットがないので今は入らなんですけど、近隣の市町村のやつはお互いに手を取り合いながらですから、大変重要だというふうに考えております。今後もそれは続けていくということで行きたいと思っております。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 弘前ではですね、40代50代の私が知っている商工会議所青年部のメンバーが講習を受けてましたという事業もありますので、黒石もそういうところを取り上げて、取り入れていただければと思います。

次はですね、子育て、教育と子育て問題についての質問です。

まず、教育制度改革、教育委員会が大きく変わるわけなんですけど、先ほどシステムが変わるという話を伺いましたけど、じゃあ、中身ですね。教育にとって、教育そのものにとって、システムじゃなくてその下、実際の現場なり、子供たちなり、親なり、その辺でどういう影響があるのかについてお伺いいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 旧制度では非常勤の教育委員長が会議の主宰者であったと。新制度では常勤の新教育長が主宰者となることから、会議が必要なときに招集するということができます。また、教育委員への迅速また適切な情報提供が可能となって、委員会の活性化に資するということが可能になるというふうに考えられます。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） システムが変わるっていうことで、じゃあ現場のほうはたいして変わりはないとか大きく変化はないようなんですけども、ただ今言ったメリットとしては、今までよりも迅速な教育委員会の運営が図られるのではないかという面で期待をいたしたいと思っております。

その中でやはり大きく変わる面として、市長の権限が反映されやすくなるというので、いろ

いろ大きく言われております。市長の権限はどのように教育のほうに反映されていくようになるのか、その辺についてお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 旧制度では、市長が議会の同意を得て任命した5人の教育委員の中から、教育委員会がこれまでは教育長を任命するという、任命責任の曖昧さがあったということでございます。新制度では、市長が議会の同意を得て新教育長を直接任命することによって、任命責任が明確化されるということになります。

教育行政における市長の役割については、総合教育会議を通じて、連携して教育行政に責任を負う仕組みが整うことになり、その役割が明確になるということでございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） それでは、今の総合教育会議というのはあくまで市長が開催して、そのとき市長が出席して意見を述べることができるというふうに解釈してよろしいのでしょうか、確認です。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） その通りであります。市長が招集するということになります。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） ありがとうございます。

次は、学力向上についてであります。

学力調査ですが、12月に出た結果を見て私は本当にびっくりいたしました。今回の調査でやっぱり問題となっているのは、中学校の学力ですね。県平均マイナス7.3%、下から2番目か3番目でしたっけ、そういう非常に厳しい状況にあらうかと思えます。

なぜ、それが非常に厳しいかという、小学校は逆にですねプラス2.9%、上から3番目ぐらいなんですよね。ですから小学校のときに、黒石は成績というか学力調査の結果がよいのに、中学生になると落ちるといふこのギャップは非常に大きいかと思います。ですから、まず質問は、問題となっている、この中学校の学力をどうやって上げるのかお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（宮崎晃一） 学力の向上について、中学校における問題点と、学力調査への対策について大溝議員にお答えします。

中学校の教科指導の特徴として、教科担任制があります。より専門的な学習という点ではよさがありますが、その先生によって指導方法が変わり、戸惑いを感じている生徒が少なくないことや、積み重ねが必要な教科の個人差がさらに多く見られるようになること。また、家庭学習の時間が十分ではないこと。将来の進路に対する意識がやや低いことなどの問題点が挙げら

れます。

以上のことから、学力向上の対策としましては、学習状況調査の結果を分析するとともに、学校全体での授業の見直しを図ること。また、中学生としてふさわしい学習の仕方や家庭学習の時間について、保護者の協力を得ながら、全校体制で「学び方の学び」を指導していくことが大切です。さらに、夢や目標に向かって自立した生活ができるよう、キャリア教育を通した生き方や進路に対する意識の向上、学習意欲を高める指導の工夫・努力も必要であります。

教育委員会といたしましては、今後も要請に応じた学力向上支援訪問等の学校訪問を通して、各学校の取り組みに対する指導・助言に努めながら、積極的に対策を講じていきたいと考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 問題点を分析して、それについて対応していくしかないのかなという、現場ではですね、そういうようなお答えですけども、子供たちの問題、教師の問題、そして親の問題もあるんですけども、簡単にはいかないと思いますけれども、これが本当に、これが底なのか、これからもっと下がるのか、もしくは横ばいなのか、これからV字で上がっていくのかですね、それによって非常に変わっていくと思います。

ですから、教育委員会にはこの問題の危機意識を持っていただいて、本気になって取り組んでもらって、必ずこれを上昇させると、そういうような思いがあるのか、もう一度、心の部分も含めてですね、お願いしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（宮崎晃一） 前回このような質問に対してお答えした機会があったと思うんですが、まずは全国で何番だとか、それから教育委員会としては県で何位だとか、そういう順番とか正答率、通過率に一喜一憂することなく、とにかく、確かに議員おっしゃるように中学校の場合は、中学校の場合はといたしますと2年生です。正答率、通過率、正解率、低いです。確かに低いんですが、中学校2年生のこのテスト一部分だけを捉えて低いというのは、中学生全体が低いというふうには市教委としては捉えておりません。中学校2年生と小学校5年生の学年を捉えての同じテストでの結果です。もちろん、できてないことはできてないものとして、できるようにするのが学校現場の仕事であり、それを支援していくのが教育委員会の仕事であります。それは積極的にできるように、わかる・できる・楽しいという授業を目指して、努力していかなければいけないと思っております。

なぜこういう話しをするかといいますと、同じ平成26年度に全国の学力・学習状況調査というのを御存知かと思うんですけども、これは中学校3年生と、それから小学校6年生を対象にしたテストです。これも毎年、教科は限定されてますけれども、非常に、ちょっと威張るわ

けではないんですが、よい結果であったのは御存知かと思います。ですから、このテストだけでいい悪いという、これは判断できないものと捉えております。もちろん、今お話しされたことを基に、上を目指して、上をというのは正答率の上昇を目指して、わからないものをわかるようにしていくということを目指して頑張っていきたいと思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 学年によって特徴があったりですね、いろんな条件が違うという面もあります。それは理解するところでありますし、ただ、中学校2年生というところでですね、ある程度受験の、次のステップへの基準が固まる大切な時期ですので、やはり次回の調査では少しでもアップすることを願って努力していくことをお願いしていきます。これはこれ以上話ししても先には進まないと思っておりますので、努力を期待するものであります。

次は、不審者対策についてですけれども、原因はいろんなことが考えられると思っておりますけれども、原因について、もし、特にこの地区の特徴とかですね、考えられることがあればお尋ねしたいと思っております。

あと、先ほどのコンビニ強盗等について、ちょっと意味がわからなかったもので、ちょっと説明していただければと思います。

◎議長（村上啓二） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（宮崎晃一） 議員おっしゃった、今冒頭の原因については、済みませんお答えできません。まず、黒石市教育委員会が、失礼しました。回答です。

教育委員会といたしましては、各学校に対し、実情に応じて不審者の侵入を防ぐ施設・設備の整備を進めるとともに、チェック体制の見直し等についての指導に努めております。また、学校訪問の際は、児童生徒への不審者を想定した指導や訓練、それから保護者への緊急連絡体制の整備等についても、確認や指導をしているところです。

なお、緊急事態発生の場合は、黒石警察署等から情報を入手し、各学校や幼稚園への速やかな連絡ができるよう体制を構築しています。

今後とも、県教育委員会や黒石警察署等の関係機関とも連携を図りながら、児童生徒が安全・安心に過ごせるよう努力してまいります。

それから、先ほどのコンビニ強盗等については、田舎館でありました、ああいう類のものについての情報です。近隣の市町村から寄せられたものに対する対応をしたということですね。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） 結局犯人が捕まらず、不審者がいる可能性があるもので、それに対して対応

したという。私の言い方で皆さんも理解していただけた、多分そういうことでよろしいですか。

◎議長（村上啓二） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（宮崎晃一） 言葉足らずでした。

そうです、入ったので気をつけてくださいという情報を受けて、登下校時間帯に先生方についてもらうとか、指導の際には一言二言添えるとか、お手紙を渡して帰すとか、そういうような対応を市教委としてお願いしたということです。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番（大溝雅昭） そうしゃべっていただければ理解できたと思います。不審者対策ですけども、実際聞いてみるとですね、昔は春に出るとかですね、いろんなこう話があったんですけど。今は違うみたいで、季節を問わず、時間的にも朝、夕いろんなところで起きているということで、原因については、教育委員会ではわからないと。

それは、ある意味当然でしょうから対策をやるしかないということですけども、やはり原因についても、社会情勢なり、あとは地域の情報なりいろんなことが、状況が変わってきているものもあると思いますので、その辺情報をとりながら、原因と言ったらおかしいですが、対策をとるために、その辺の情報もうまくとりながら子供たちの安心安全を守っていただければなと思います。

ただ、一つだけ危惧するのがですね、余り過敏になり過ぎて、私なんか朝、声をかけると不審者だと思われてしまうと。余りそういふうになるとですね、その辺コミュニティーとの部分もあるので難しいんですけども、コミュニティーを大切にしながら、不審者対策。逆にコミュニティーを強くすること自体がですね不審者対策になっていきますので、その辺も含めながら対策をお願いしたいと思います。

次は、子育て世代包括支援センターについてですけども、ことし27年度から始まる国の事業ということで、非常にこれを見たときですね、もっともだなと私も思いました。妊娠から出産子育てまで一貫して同じ場所で相談できる場所が実はないということを実感しております。その辺現状についてはどのように考えているのか、お尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 現状といいますと、今まで、黒石病院に産科があった状態のときは、産科に行って産科の医師なり、助産師なりからいろいろアドバイスはいただいていたと思います。ことしから産科もちょっと閉鎖になるということになれば、今のこの、子育て世代の包括支援センターというのは、大変重要な位置を占めてくるんだろうというふうに考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 9番大溝雅昭議員。

◎9番(大溝雅昭) いろんな子育て支援が出るとですね、その事業ごとにいろいろ、子育てメイトだったり、病院のほうのサポートだったり、いろいろあるんですけど、やはり縦割りという部分が結構ありますので、ぜひとも。逆にこれを利用して、わかりやすいようにしていただけるよう、前向きに考えているようですので、取り組んでいただければなあと思います。

3番目は、観光行政についての質問であります。時間もなくなってきましたので。

まず、駅前観光案内所ですけれども、観光案内の機能を持たせるということですが、それではですね、それ機能の面ですけれども、黒石の駅前をですね、どのようにしようと考えているのか、そういう考えがあるのかお尋ねします。

◎議長(村上啓二) 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長(永田幸男) ちょっと、余りにも抽象的であれなんですが、駅前自体はハード的には既にかなり整備されておりますので、今回の観光案内所自体は、あくまで観光インフォメーション機能の強化ということで、市内の観光スポットへスムーズな誘客を図ること、これが第1点の目的であります。

特に、これまでなかなか休日対応ができなかったのが、今後は常時対応できる観光案内業務の専門的な一つの部署が設置されるとともに、中町を含めた2つのこの拠点で、今後、連携が図られることになり、これまで、駅前、町なか、郊外とそれぞれ点となっていたものが、線で結ばれることになり、一つの新しい観光の流れがつけられるものと考えております。以上でございます。

◎議長(村上啓二) 9番大溝雅昭議員。

◎9番(大溝雅昭) 機能の部分でそういう機能があるのはわかったんですけども、例えば、駅前をいわゆる黒石の観光の入り口ということで、シンボルですね観光的なシンボルのような形にするとか、例えば駅前広場がありますけれども、活用されているのか、駐車場はちゃんと整備されているのか、そういうのも含めてですね、駅前を観光の玄関として整備していくような計画はあるのでしょうか。

◎議長(村上啓二) 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長(永田幸男) 議員御承知と思いますが、トイレ、あるいは駐車スペースも幾分確保されておりますので、今のところそういった計画はないものと思っております。ただ、駅前広場の活用については、現状ではいわゆる散歩の人たちとか、それから待ち合わせのあれとかという形で活用されてると思いますが、イベントしての活用については、今のところ黒石よされのみとなっておりますので、駅前の活用、広場の活用については今後の検討課題だと考えておりますので、今後検討していきたいと思っております。以上です。

◎議長(村上啓二) 9番大溝雅昭議員。

◎9番(大溝雅昭) 実際駅前広場、その機能の面ではトイレがあつて場所があるというのはいんですけど、やっぱり観光の玄関としての活用の仕方というのは非常に弱いと思いますし、また観光協会が案内所に来るといふような話も聞いてますので、観光協会とも十分に話しながら、駅前にある程度、黒石の観光の玄関としての機能を、見た目、感じる面もあわせて、あとはイベントも含めてですね、やっていく必要があるかと思つたので、とつかりの始まりだとは思つたんですけども、やはり整備も含めて考えていくべきだと私は考えております。

じゃああと最後、案内板のほうに移りたいと思つたんですけど。案内板、サイン、実際必要なんですけれども、それじゃあ一体、いつ、どのように整備しようとしてるのか計画をお知らせください。

◎議長(村上啓二) 建設部長。

◎建設部長(工藤伸太郎) 観光拠点となる松の湯交流館及び金平成園の開業を控えていることから、施設利用や夏祭り前までには新たな案内板を設置するほか、既設案内板の古い情報の更新やパンフレットの作成などにより、誰でもわかりやすい案内を図り、快適に回遊していただくための取り組みを実施してまいります。

このことに関し、平成26年度の取り組みとしては、既設サインの把握。これにつきましては、こみせや金平成園、地域資源ですね、及び既設のサインの位置や内容を市内の地図情報に落とし込むということで、一目でわかりやすいような態勢をつくるということでもあります。それから、回遊ルートやそのサインの検討につきまして、観光関連8団体とワークショップを2回開催しております。

27年度につきましては、案内板の設置となるわけですけども、回遊ルート及び案内板の検証を、まち歩きを実施しながら、回遊ルート及び案内板を再度検証してまいりたいと考えております。以上です。

◎議長(村上啓二) 9番大溝雅昭議員。あと5分ですよ。

◎9番(大溝雅昭) 最後に一言。松の湯交流館、そして金平成園ができるわけで、できただけならだめなので、今言っているように案内、きちんとできないとだめですし、駅のほうも整備すると。同時に案内板についても車の案内板と歩行者の案内板とまた違うわけで、特に黒石は一方通行が多いので非常にわかりにくい。黒石に住んでる人は全然気にならないんですけども、本当にほかから来た人はわかりにくい。駅からこみせに行く方法もわからないという人・話を結構でなくて、ほとんど聞きます。

ですから、早急にですねその辺検討しながら、できる範囲で取り組んでいただければなというふうに思いますし、駅前も観光案内にするのであれば、やっぱりそれなりの機能だけではなくてですね、玄関としても役割ももっと持たせていくべきだということ私の質問を終わらせ

ていただきます。ありがとうございました。

◎議長（村上啓二） 以上で、9番大溝雅昭議員の一般質問を終わります。

（「議事進行について」と呼ぶ者あり）

◎議長（村上啓二） 14番北山一衛議員。

◎14番（北山一衛） 2時46分から黙とうが入っております。それまで暫時休憩をお願いしたいと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 暫時休憩いたします。

午後 2時29分 休 憩

午後 2時47分 開 議

◎議長（村上啓二） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、15番中田博文議員の登壇を求めます。15番中田博文議員。

登 壇

◎15番（中田博文） 平成27年第1回定例議会に当たり、一般質問をさせていただきます。自民・公明クラブの中田博文でございます。今期最後の議会であり、私にとりましては、特に意義のある4年間であったと思っております。前半は議長として、また、工藤俊広議会改革推進委員長のもと議会改革が進み、さらには10市の中で当市だけが発行できないままになっていた議会だよりが実施を見ることができました。議会だよりを担当する大溝雅昭委員長を初めとして、両委員会とその委員各位には心から敬意を表するものであります。人は常に学び進化していかなければならないと思います。黒石市議会がさらに発展し、多くの議員の発言並びに議論が活発になっていくことを切望するものであります。発言なくして議論は生まれず、議論なくして何も生まれません。このことをみずからの政治理念とし、今後とも市民の代弁をしまいたいと存じます。

それでは通告に従い一般質問を始めたいと存じます。最初の質問は、市民文化会館再開の見通しについてであります。

当市の中心市街地が衰退した要因の一つが、市民文化会館の休館であります。お金がなく、日本の全市の中で市民会館的な施設の休館は黒石市だけと聞き及んでおります。

33年前、27億円の巨額を投じ、黒石市の経済の活性化につなげる目的と、文化都市を標榜する当市には必要な施設であったのであります。しかし、時代の流れと財政の脆弱体質ゆえに維持できなくなった市民文化会館。本来、伝承工芸館やスポカルイン黒石よりも市民文化会館を守ってこなければならなかったのであります。これこそが政治の失敗・失態と言わざるを得ま

せん。

そこでお尋ねいたします。予算編成時にこの問題が議題になったのかということでもあります。市長は1月6日の年頭の記者会見で市民文化会館の一部再開は重点事業の中に含まれておらず、可能性について触れなかった、と報道されております。市民のニーズが高いものが議題にも上がらないということは、もはや風前のともしびと考える市民は大方であります。市長の所見を賜りたいと存じます。

私は議題にならないということ自体が、市民に対し失礼なことと感じます。平成27年度で8年目の休館になる市民文化会館。特に婦人の方々から、「伝承工芸館で催し物があっても往復の時間の無駄。遠過ぎて個人個々の運転は年齢的にしんどくなってきている。生きているうちに多目的ホールだけでも再開を強く望む」と切実な思いを語っていたのであります。そこでお尋ねいたします。多目的ホールだけの一部再開ということに、どれくらいの費用とどのような問題が生じるのかをお知らせください。

次は、スポカルイン黒石にあります図書室についてであります。

市内の図書館建設の推進を望む方からは、「まちからは遠い。図書室自体がスポカルの入口からずっと奥のほうで行きづらい。黒石公民館の中にあつたときは便利であった、早く元に戻していただきたい」と、その方も強い口調で望んでいたことが脳裏から離れないのであります。この件も単独で黒石公民館の中に昔みたいに図書室の設置を考えるとしたら、どれくらいの費用と問題点はどのようなことが想定されるのかお尋ねいたします。

答弁する側も大変でしょうが、私も再開の実現を願うがゆえに質問しているのであります。本来事業を進めるとき、20年後・30年後を見据えて実施すると思いますが、今現在お金がないので休館、打開策を見出すこともできないことは、身の丈に合わない施設であったと思うのであります。大枚をはたいてつくった市民文化会館、使えない・眠らせておくことしかできないことが、市民に申しわけないと反省しなければならないし、政治不信につながっていると私は思います。

人もかわり、建設した当時の市長もいません。その当時を知る職員もいません。今までも幾度も再開のめどということで質問してまいりましたが、この先も可能性は低いと思いますが、本当に再開を考えているのであれば、措置できる額で結構ですから一部再開、さらには部分的整備、修理ということを高樋市長には1期4年間のうちに少しずつでも進展をと期待するものであります。市長の所見を賜りたいと存じます。

大きな2番目は、平成27年度重点事業についてであります。平成27年度の重点事業の中から、私自身が興味と期待を感じたものを取り上げた次第であります。

1点目は、短命市返上・健康長寿市対策事業における黒石市健康マイレージ事業についてで

あります。まずお尋ねすることは、マイレージ事業って何なんですかということでありまして。それに応じた特典を与えるとなっております。内容はどのようなものを想定しているのかであります。また、生活習慣病予防や介護予防につなげるとなっておりますので、まずこの事業を進めるに当たってどのような狙いと目標をどのように考えているのかお尋ねいたします。

2点目は、農業振興対策事業の青年就農給付金事業であります。予算額を見ると7,900万円余で結構多いのでどのようなものなのかと、対象は、事業の目的・目標はどのようになっているのか、今までの実績と成果並びに今後の継続の必要性はあるのかであります。

3つ目は、松の湯交流館開業運営事業についてであります。

おおまかな説明は予算案の資料から知ることができますが、大事な事業でありますので、1,857万7,000円の内訳並びに市民や観光客がいつでも気軽に利用できる施設にするとなっております。具体的な説明をお願いします。

また、松の湯の進捗についてであります。松の湯の復元工事は2年か3年前には2億円くらいかかるとの説明があつたのですが、結果的には2億8,000万円と膨らんだのであります。それだけでなく当市はお金がない市であります。啞然とした議員がいたのであります。再度説明を求めるものであります。

また、工期が3カ月伸びるということであり、理由は大雪のためとなっております。北国は冬には雪が降るのが当たり前、雪が降っている時は早目に雪片づけをし、工事を進めるのが普通であり、3カ月もおくれることが素人の私でも不思議でなりません。ましてや建築物は屋根ができれば雪がどうのこうのということはないと思います。おくれる理由をもっと詳しく求めるものであります。

4つ目は、参考資料の地方創生先行型の黒石市総合戦略策定事業の中の、中心商店街空き店舗対策事業についてであります。まずはこの内訳をお尋ねいたします。今までも当市は空き店舗対策として、市の活性化につなげる施策を講じております。しかし、いい施策を講じても利用する方がいないということは絵に描いた餅と同じく、現実の物ではないということになるわけでありまして。担当課の努力とやきもきする心意気はわかりますが、問題は中心市街地の活性化が目的であります。家賃1カ月5万円が1年間、店舗改装費が100万円から150万円に増額しても、果たしてそれで済むのか。建物自体が古くなっているのも、非常に難しいのではと思います。一番のネックは2年以上経営しないと一部返還となるような条件がハードルが高いと思うものであります。申し込みが殺到するような制度にしなければならないと思いますが、見解を求めるものであります。

3番目は、ふるさと納税についてであります。

この問題は今回で3回目であり、今までの答弁を聞いていると、何と悲しいかニュース性が

何もないうまま特典の導入は考えないということでもあります。新聞紙上で質疑・答弁を見た市民、結果を聞いた市の職員は、「担当課は何を考えているのか」新しい仕事をつくりたくないから、と思っています。全く弱腰であります。体裁を考えるのではなく、当市の財政状況を鑑みてほしいのであります。地方創生などの補助金には、イの一番に手を挙げるのに、ふるさと納税の特典の導入をしないことが、不思議でなりません。市民並びに議員の大方の方は疑問を抱いているのであります。他の自治体と比較することなく、黒石独自のものでいいのであります。市税・交付税は年々減少し、平成27年度の予算額を比較しても10市で下位であります。特典の導入を実施し、ほんの少しでも税収の増を考えることが至極当然であります。担当の考えがどうのこうのではありません。市民のために実施しなければならないと私は思います。しかるに結果は別であります。周りを見ることも大事ではないでしょうか。

本日の答弁によっては議員の方々の協力を得て、別なる運動の展開を試みたいと思っております。

また、村元英美、沖野俊一両部長を初めとする3月で退職される方々には、長きにわたり黒石市のために御尽力いただいたことに対し、心から満腔の敬意を表するものであります。まことにありがとうございました。

以上で壇上からの一般質問を終わらせていただきます。御清聴まことにありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長(村上啓二) 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長(高樋憲) 中田議員にお答えいたします。私からは、ふるさと納税についての特典導入についてお答えいたします。

ふるさと納税制度への対応につきましては、先般、市の全職員に対しまして、当該制度に関する市の新たな仕組みづくりについて意見を募集を行ったところであります。5件ほどの提案がありました。

ただ、こういう状況の中におきましてもですね、国自体は、余り今の現状を見たときに、産地間での特産物での競い合うこと自体には、余り良としないような趣旨の話も今出ているのが現実であります。

しかし、私自身も各市町村等の取り組み等も踏まえた上で、今回、職員の方々の意見等もいろんな面で勘案しながら、まずは今まで市としてやってきた「人づくり」や「こみせ」を初めとする歴史文化の保存・継承のための施策に活用するという部分は大事にしながらも、少しでも多くの方々にそのことに理解を示していただきながら、賛同していただける環境づくりに努

めたいというふうを考えております。そういう部分におきましては、現在特典の導入を含めて、今後の実施方法について、職員全体ともう一度検討しながら、実効性のあるものにつくり上げていきたいというふうと考えております。私からは以上であります。その他につきましては、関係部長より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 中田議員にお答えをいたします。その前に、私と沖野局長に対して慰労のお言葉ありがとうございました。

それでは、健康マイレージについて、マイレージ事業とは何ですかというお話しでした。

マイレージ事業というのは航空会社が飛行機に乗った距離、マイル数に応じて特典を付与した事業なのですが、最近はそれらをいろんな事業に名前を使って、うちほうみたいに健康マイレージというふうな形でやっている事業でございます。

当市の健康マイレージ事業については、市民の健康づくりを促進するため、がん検診受診もしくは特定健診の受診を必須として、健康に関する講座やスポーツ教室、介護予防教室等市が行う事業のほか、健康づくり団体やスポーツ団体による健康づくり事業に参加することでポイントを獲得し、そのポイントに応じた特典を与える事業でございます。

また、特典っていうのは直接市のほうから物品を上げるということになりますけれども、それ以外に、市内商店街等に健康づくり事業への協賛を呼びかけ、一定のポイント獲得者に協賛店独自のサービスが受けられるようなことも計画をしております。

特典は何かというお話しでしたが、現在具体的な特典は検討中でございますけれども、例えば健康志向の物、油を使わず揚げ物ができるノンフライヤーとか、自転車とかそういう健康関連の物を用意したいというふうを考えてございます。

目的ということですが、短命市返上・健康長寿市を目指すには、まず主要原因であるがんの死亡を減らすことが一番重要であるというふうと考えており、早急に生活習慣の改善と各種健診の受診率アップを図ることが必要だと思っております。そのためには、市民一人一人がみずからの意思で主体的に参加し、健康づくりを推進することにより、活力ある健康長寿市の実現をつくると。市内商店街の活性化も、今の応援の店を使いながら活性化も図っていききたいというふうと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは青年就農給付金事業と、それから中心商店街空き店舗対策事業についてお答えいたします。

まず、青年就農給付金事業でございますが、これは新規に就農し、定着するおおむね45歳以

下の青年農業者を倍増することを目的に、就農直後のリスクを背負った、経営の不安定な初期段階の方に対して給付され、就農意欲の喚起と定着を図ることを目的に、「就農に対する今後の計画性」、「定着への意欲や発展性」などを面談するなどして考慮し対象者を決定して、平成24年度から実施しているものであります。

平成26年度は、年度途中で他市町村からの給付に変更となる方もおりますが、個人給付を受ける35人と夫婦で給付を受ける4組8人で、合計43人の方に3月末まで、国の前倒し給付も含め、9,300万円が給付される予定となっております。

ちなみにこの43人の中には、いわゆる帰郷して就職したUターン組が2人、それから移住してきたIターン組が2人含まれております。

次に、中心商店街空き店舗対策事業であります。対象条件として、まず業種指定があること、それから週5日以上、日中に営業し、かつ2年以上営業を継続すること、景観を著しく損ねない外観であること、あと対象地域の商店街組合等に参加していること、市税等の滞納がないことなどを主な条件として、賃借料と改装費の補助を行っております。

賃借料につきましては、1件当たり月額10万円を限度とし6カ月分の補助としていたものを、今年度から1件当たり月額5万円を限度とし、12カ月分の補助に拡充するなど、使いやすい制度となるよう補助内容の見直しを行いました。

今年度から実施しております改装費補助については、1件当たりの上限を100万円としておりますが、地方創生先行型の交付金を活用し、平成27年度は1件当たりの上限を150万円に拡充するなど、空き店舗対策をより重点的に実施することとしております。

現在、数件相談がありますので、その実現に向けて努めますとともに、本事業により店舗数がふえ、商店街活性化の起爆剤となるよう、大いに期待しているところでございます。

次に、先ほど条件の撤廃のお話の件でございますが、営業期間の条件撤廃に関しましては、撤廃することによりまして短期間営業した事業所も対象となってしまう懸念もあり、中心商店街ににぎわいを取り戻すための趣旨と反することから、現在は考えておりません。しかしながら、開業する方へ経営が軌道に乗るまでの一助となり、長期間継続して営業していただけるような制度であるべきではあると考えておりますことから、今後も使いやすい制度となるよう引き続き検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは市民文化会館再開の見通しについてと、27年度重点事業の中の松の湯交流館開業運営事業についての、旧松の湯再生事業についてお答えします。

まず、市民文化会館の再開について、27年度予算に要求したのかという件ですけれども、現

在、文化会館の一部再開に向けてさまざまな角度から検討中であり、予算要求できる状況ではないと判断したことから、平成27年度の予算には要求しておりません。

次に、多目的ホールだけでも再開できないか検討してほしいとの件ですけれども、市民文化会館一部再開するために、市長就任後の指示を受けて細部にわたり試算いたしました。また、多目的ホールだけの開館についても検討いたしましたが、部分再開であっても、共有部分の屋根の防水シート補修、給排水設備改修、冷暖房設備、身体障がい者用トイレその他雑工事と多目的ホール吊天井の改修等に費用がかかること、また多目的ホールの用途として研修会や発表会の使用が考えられ、講師や出演者の控室がなければならないことから、多目的ホールだけの再開は今のところ考えておりません。

同じく、図書室だけでも再開できないかということですが、黒石公民館の図書室だけの開館についても検討いたしましたが、部分再開であっても、先ほど述べたとおり共有部分の改修工事費が同じくかかることから、図書室だけの再開はできないと判断いたしました。

次に、旧松の湯再生事業の増額になったということについてお答えします。

旧松の湯再生工事費の実施額が、当初概算額に比べ増額になった理由につきましては、ここ数年の労務単価や資材単価等の高騰が顕著であることと、土蔵の解体・再生工事及び中町地区防災対策関係工事が追加になったことによるものでございます。

次に、工事の進捗状況がおくれたことについてお答えします。

工事がおくれていることにつきましては、追加工事の契約日が10月28日と、この時点においても大変厳しい工期でありましたが、会計年度の基本から年度内の完成に向け努力したものです。しかし、12月初旬からの大雪と低温が続いたことから、気温と湿度の影響を受けやすい外部漆喰仕上げ工事、外部の古色塗装等が大きく影響を受けたことに加え、外構工事にも支障を来したために工事が延長となりました。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） ふるさと納税についてであります。

高樋市長のほうから答弁いただきました。今までの答弁とは若干違うことを感じましたので、確認をいたしたいと存じます。

特典も含めてということの答弁であったと思うんですけれども、その特典・返礼品の物も含めてこれから意見を聞いていくということの理解でよろしいでしょうか。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） このふるさと納税に関しましては、先般東京で観光大使の方々、そしてまた

東京黒石会の方々ともいろんな意見交換をさせていただきました。それを踏まえた上でですね、今、先般市役所の職員の方々に意見募集をしたわけでありまして、ただ私どもが考えておりますのは、特典っていう位置づけがですね、他市町村と同じような位置づけでは考えたくはない。黒石ならではの特典っていう部分で対応を考えたい。その方向で検討したいということでもあります。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） その特典というものは返礼品とかそういうのも入ってるんですか、入ってないんですか。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 返礼品等々につきましてもですね、これから市役所内部でいろいろ議論をしながら検討・整理していきたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 今まで2回、質問・質疑やってきた中であって、得られない答弁を得たということで、前向きな形で進むものかということで期待をして見守っていきたいと思いますので、是が非でもこの特典はやっていただきたいと思います。

特典に関してはですね、3月8日地方紙の中に、多分皆様方見ておるとは思いますけれども。県内40市町村のうち27市町村が実際この返礼品をしながら地元の市町村のPRっていうことをやっているわけでございますので、やはりその、後にはなっておりますけれども、やっぱり肩を同じ立場で並べる。そのものの金額の多い少ないはこれ別にして、やっぱり黒石のPRのためにはやるべきだと思っておりますけれども、もう一度見解をお願いします。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 私といたしましては、国の方針を私は尊重したいというふうに考えております。先ほど答弁で申し上げさせていただきましたけれども、国自身は余りにも特典で競い合うことはいかなるものかと。私自身も、このふるさと納税の本来の趣旨から考えますと、ああいう姿は余り好ましくなのではないかなというふうに思っております。しかし、時代の流れというものも十分尊重しなければいけないという部分も、十分考えておりますし、しかし、かといって他を見習えっていうことは全く考えておりません。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 何かその、言葉に前向きなのか言葉だけなのかと、先ほど以来すごい1人で今悩みながら、期待しているのか期待できないのかということで、やはりですね県内10市のうち、9市がもう実際やってるわけですが、金額の差はあるにしても。やっぱり黒石はですね、先ほど佐々木隆議員のほうから、黒石はリング献上しているということでもありますので、やっ

ぱりそのものを一つのPRするような形で黒石りんごというものをアピールしていく必要があるので、一つの例としてリングでありますけれども、やっぱり前向きな形で金額は別にして考えて、これが黒石にとってプラスになるわけでありますので、お願いしたいと思います。これは提案であります。

次にですね、市民文化会館ですけれども、この今の説明であればいつもと同じ答弁であります。何ら変わらない、進展もなければです。やっぱり市民は、ちょっとずつでも一部分でもということを考えておりますので、構造上、共有部分の工事ということが膨大にかかるということで、それは黒石公民館一部の再開の3億5,000万円から4億円ということの考え方でよろしいのでしょうか。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 市民文化会館ですけれども、教育委員会としては再開するための現実性があるとするれば、3階は改修せずに、1・2階と多目的ホール、あとは1階の身体障害者用のトイレ等の改築工事等が一番適当であろうというふうに考えております。

工事費については、今、議員さんがおっしゃいました金額からはかなり削減できるのではないかとってはおりますけれども、まだまだ、今、数字で概算でこだけっていうことはちょっと差し控えたと思います。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） この市民文化会館一部、黒石公民館部分の一部再開ということも、今まで何度も、早くやっていただきたいということを述べておるわけです。ここに至って、何もその金額的なものが試算も何もできないということになると、結局、私たち市民に対して説明することができないということになるわけでございますので、この後もですね、この後私たち改選があります。上がるかどうかは別にして、また上がってきたら、継続でまたやっていくつもりでありますので、やっぱりもう少し細かいところまでの調査なり研究、物を盛っていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 今お話ししましたように、いろんな角度から検討してございます。ただし、実際に再開にかかる費用もありますし、再開してからかかっていくランニングコストっていう部分もあります。そうした面も含めていろいろと試算中でありますので、数字的なものは公表できないと思っておりますけれども、いずれにしても教育委員会といたしましては、一生懸命に再開できるように検討してまいります。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） わかりました。金額はまず今のところでは工事費等はしっかり盛っていない

ということでありますので、じゃあその工事費のお金、要するに市民文化会館の基金等々の物を含めてですね、準備していかなければいけない。これは2年間で6,000万円というものがたまっております。この後、この文化会館再開に向けての基金とかそういうものはどのような方向で考えているのかお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） まず文化会館につきましては、先ほど答弁の中にありましたように、私が就任し、見直し・検討させるようにいたしました。当初は改修費が三億四、五千万円位かかるというのを見直した結果、2億5,000万円位まで下がりましたけども、それでも黒石の財政状況から見ますと、できる状況でないということで、再度、もっともっと削られないかということで検討もさせました。

もう一つはですね、その工事費もそうなんですけれども、先ほど部長の答弁にありましたように、ランニングコストもまた問題になるわけですよ。今、新年度の予算も組ませていただきましたが、基金から3億円繰り入れして基金残高700万円になる状況での黒石の今の財政状況であります。そこで考えた場合にはですね、工事費以上にまずは維持管理費、ランニングコストという部分をですねクリアしなければ、工事費にすら取りかかれない現状であります。ですので、私どもといたしましては市民の要望は重々わかっておりますので、一年でも早くですね、それを実現するべく、今、努力している最中であります。以上です。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 文化会館の運営基金の6,000万円のことでありますが、これは以前からの方針どおり、再開のためにとっておいているものでございますので、その方針に変わりはありません。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） ことしの予算編成っていうのは厳しかったということでありましてけれども、この後ですね、もっともっと基金を積んでいかなければ工事費、再開のめどは立たないということでありまして、今後の方針というものをお尋ねします。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） きょう午前中に工藤和行議員に市長がお答えしておりますけども、基金が今現在の数字で底をついている状態で、今後その特別交付税の中身がですね、どういうふうに表示されてくるか、はっきり申し上げてふたを開けてみないとわかりません。4分の1ほど先行して交付されている分もありますけれども、本体のほうが幾らになるのか、ということが非常に財政としても気にかかるころではございます。

その基金をですね、少しずつでも増やしていく、その文化会館の一部再開に向けてというこ

とだけではございませんけども、そのほかにもさまざまな財政需要、課題いっぱいございます。ですので、財政の裏づけができませんとですね、さまざまな懸案の事業を進展させていくということが計画どおりできなくなる可能性もございます。そういう意味で、工藤議員に市長が御答弁申し上げたとおりですね、まず新年度の予算をいかに少ない経費で効果を上げていけるように工夫していくか、そこからまず始めていく必要があるというふうに思っております。

財政、その許容量がございます。言い方を変えれば、歳入に見合った歳出でなければならぬわけでございます。そういう意味で、歳出の中身の検討をですね、今までやってきた手法にプラスして一緒に研究、新しい黒石の財政を好転させていくためのことも含めて、今後進めてまいりたいと、努めてまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 市民文化会館もしかり、いろんなものを我々議員が今、提案したり、物事を過去、現在ということでお尋ねしてもですね、要は金がない金がない、財源がないということのやりとりで終わっているのが黒石市議会の全てと感じておりますけれども、昔からのね、やっぱりその政治家、物事の捉え方っていうものが、今になって後悔先に立たずという結果が今なってるわけでありますので、我々議員としても市民に文化会館のものを説明する場合ですね、やはり苦しい中であってでも、今回はウン千万円、今回はウン百万円、今回はウン十万円しかできないけども、今その再開のために実際厳しい中でもやりくりしながら積み立てをしていっているということを、やっぱりその強調して、実際考えているんですよ、ということを訴えていかなければ、私たちは逆に指摘を受ける。何も考えてないんでないかということと言われるわけですので、その点今後ともしっかりと議題にしながら、先ほど予算の要求はできないという、論外というような形の答弁でしたので、やっぱり話し合いなり議題にしていかなければいけないのが、この大きな問題であります。

もう本当に、今の方々がもう動けない、歩けないということになると、逆に市民文化会館はあってもなくても良いような状態になってしまうわけで、今現在、必要だということであります。本当に真剣になってね、一部、黒石公民館部分でもやるような努力、そしてまた市長が述べたとおり、詰めながらお金をかけない、ここの部分は我慢してもらおう、ここの部分は修理修復するということで市民は理解してくれると思いますので、本当に前向きな形で物事を進めていただきたいと思います。文化会館については以上であります。

あとは、空き店舗でありますけれども、本当にその説明を受けたものを、町なかに出店したいという方に説明は私たちもしております。ただ、幾ら説明してもこれこれこういう物はネックだとか、結局やってみてもですね、採算取れないということになると、悪循環というか、卵が先か鳥が先かということになるわけでありますので、人が来るということのものにやっぱり

変えていくことを考えていかなければ、その借りるほうの立場の気持ちになっていかなければいけないと思いますので、空き店舗対策に対しても、もう少し緩和するという考えを持っていただきたいと思いますけれども、再度お尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） この空き店舗対策事業は、市で独自で決定しているわけではございませんで、当然審査会を経て決定していきます。メンバーとしては商工会議所、黒石の商店街協同組合、あるいは当該出店するところの商店街の代表等々と協議して内容等を決めて、最後、交付するかどうかも含めて検討しているところです。

その中でもいろんな情報交換をしております、議員おっしゃったように非常に老朽化して使いにくいということも一つあることと、もう一つは店舗自体がいわゆる住居と併用している店舗もあるということ、もう一つは非常に一番問題のネックとなっているのがトイレでございます。そういう問題もあってですね、なかなか簡単にマッチングされていかないと。

ただ、ことしこの事業を地方先行型で創生先行型で実施するに当たっては、既にもう先ほども申しましたように、何件か引き合いがあって、実現に向けて努力している業者もございまして、この辺に向けては、市としても最大限努力していきたいと踏まえております。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 部長さんの答弁ありがとうございます。実際、数件申込みあるということの中の何件でも結構ですので、うまく話し合いがついて出店していただくことを、まずは強くあっていただきたいと思います。

それとですね、質問ではありませんけれども、市内いろんなところに空き地がございまして、それとですね、古い店舗だとお金かかる、なかなか借主もオーケーが出ないということでありまして、提案でありますけれども空き地に小っちゃな長屋をつくりながら、何件か入れて行政のほうで、つくる、そして貸していく、そして活性化を図る、市内中心街にお店をふやしていくということ、まず今後の課題として検討していただきたいと思います。

それとですね、先ほど福祉部長のほうからマイレージ事業の特典ということで、何か自転車とかそういうものも特典もあると。どれぐらいのもののポイントが上がると、そういうものももらえるような形になるのかと。ちょっとこう関心を持ったので、市民にアピールしていきたいと思って。

◎議長（村上啓二） 一つ一つ行こう。マイレージは前に言っているの。15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 空き店舗のほう。そっちは提案で終わり、答弁要らない。

◎議長（村上啓二） 議事を整理したいと思います。健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 先ほどの自転車とかのは例えばの話です。例えば。

そういう健康に関連するものを考えているということです。

大体予定としては、まずがん検診もしくは特定健診を受けるのが必須なので、それらを受けた人に対しては参加賞みたいのを差し上げたいと、それは3,000人くらいを予定しております。参加賞ですので、そんなに高くはないと思います。

次、いろんな健康事業に参加した人たちについては、これからポイント数を決めていくんですけども、対象の事業とかそういうのを決めて、一定の点数、大体2段階くらいを考えているんですけども、1段階くらいまでいった人には、大体5,000円から1万円相当を、得点で、抽選で、みんなにあげたいんですけども、抽選で200人くらいです。それから、その後もう一つ上のレベルまでいった人には2万円相当の物を。大体50人くらい、これも抽選ですけども、今のところ考えてございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 何かその、抽選ということを知ったらちょっとがっかりしちゃって。もうちょっと先っていうの、ポイントが先になった人が、まずこう先っていう、これで打ち切りですよっていうほうがまだいいのかなと。抽選やるとよく、「ちゃんと抽選やってるんだな」とか、「裏で何かある」とかそういうような声って結構聞こえてくるんですよ。運悪い、運のいい人悪い人、それはやっぱり自発的に早くポイントを上げた人が200名なら200名、という形になったほうがいいんじゃないかなと思いますけれども、やっぱり抽選でしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 期間を一応決めております。大体10月くらいまでをめどにやるので、前にいろいろ農業機械とかで先着順でいろいろもめたこともあるので、抽選が一番いいだろうということです。目的は検診受けてもらうことなので、検診受けた人には参加賞はいきますので、その方たちには必ず、検診受けた方には必ず何かが行くよと。その後、もっと頑張れば、そこから先は運がありますけども、公開で抽選したいと思いますので。「どうやってやっちゃうのよ」とかはないように、ぜひ中田議員も抽選のほうにおいでくださればいいのかと思いますけども。公開でやるようにしますので、抽選でやります。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 先ほどお金のない話ばかりして申し訳ないと思います。今その特典とかの話聞いてですね、何かわくわく楽しくなるような、検診に率先していく市民がふえていくのかなという形で聞いておりました。私たちも、市民にそういう話をまたしていけるということで、非常によかったなと思っておりますので、実際文句とか、そういうもの出ないように一生懸命頑張っていたきたいと思います。

◎議長（村上啓二） 以上で、15番中田博文議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 本日はこれにて散会いたします。

午後 3時35分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成27年3月11日

黒石市議会議長 村上啓二

黒石市議会議員 佐々木 隆

黒石市議会議員 村上隆昭